イギリス文学特論IA				単位数	2単位
授業コード	M2110	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

本授業では、17 世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当発表・意見交換（20%）	1／2
2	小レポート（20%）	1／2
3	学期末レポート（60%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

愛をテーマにしたダンの詩を取り上げ、永遠性を表す比喩表現に注目しながら形而上詩の系譜を辿る。

回
1　　導入―詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介
2　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 1「唄」(“Song”) 2 種
3　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 2 「おはよう」(“The Good-Morrow”)
4　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 3「「日の出」(“The Sun Rising”)
5　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 4「聖列加入」(“The Canonization”)
6　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 5 「記念日」 (“The Anniversary”)
7　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 6 「別れ（嘆くのを禁じて）」 (“A Valediction: Forbidding Mourning”)
8　宗教詩の作品講読 1 『冠』(La Corona)
9　宗教詩の作品講読 2 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』前期
10　宗教詩の作品講読 3 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』中期
11　宗教詩の作品講読 4 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』後期
12　宗教詩の作品講読 5 「キリストに捧げる賛歌」("A Hymn to Christ, at the Author's Last Going into Germany")
13　宗教詩の作品講読 6 「病床にあって神、わが神に捧げる賛歌」("A Hymn to God, My God, in My Sickness")
14　評論を読む
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
John Donne, The Complete English Poems 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、質問をメール等で受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学特論IVA				単位数	2単位
授業コード	M2111	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

本授業では、17 世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当発表・意見交換（20%）	1／2
2	小レポート（20%）	1／2
3	学期末レポート（60%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

愛をテーマにしたダンの詩を取り上げ、永遠性を表す比喩表現に注目しながら形而上詩の系譜を辿る。

回
1　　導入―詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介
2　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 1「唄」(“Song”) 2 種
3　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 2 「おはよう」(“The Good-Morrow”)
4　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 3「「日の出」(“The Sun Rising”)
5　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 4「聖列加入」(“The Canonization”)
6　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 5 「記念日」 (“The Anniversary”)
7　『唄とソネット』(Songs and Sonnets) の作品講読 6 「別れ（嘆くのを禁じて）」 (“A Valediction: Forbidding Mourning”)
8　宗教詩の作品講読 1 『冠』(La Corona)
9　宗教詩の作品講読 2 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』前期
10　宗教詩の作品講読 3 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』中期
11　宗教詩の作品講読 4 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』後期
12　宗教詩の作品講読 5 「キリストに捧げる賛歌」("A Hymn to Christ, at the Author's Last Going into Germany")
13　宗教詩の作品講読 6 「病床にあって神、わが神に捧げる賛歌」("A Hymn to God, My God, in My Sickness")
14　評論を読む
15　まとめ

定期試験
レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
John Donne, The Complete English Poems 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、質問をメール等で受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

イギリス文学特論IB				単位数	2単位
授業コード	M2115	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

本授業では、19 世紀アメリカの女性詩人エミリ・ディキンスンの形而上的な作品を中心に、英詩を研究する。イギリス形而上詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当発表・意見交換（20%）	1／2
2	小レポート（20%）	1／2
3	学期末レポート（60%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

南北戦争時における、永遠性を希求するイメジャリーを駆使したディキンスンの詩を取り上げ、現代詩に通じる技法を読み解く。

回
１　導入―詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介
２　自然詩講読１（1861 年創作の作品）
３　自然詩講読２（1662-63 年創作の作品）
４　自然詩講読３（1864-65 年創作の作品）
５　愛の詩講読１（1861 年創作の作品）
６　愛の詩講読２（1662-63 年創作の作品）
７　愛の詩講読３（1864-65 年創作の作品）
８　死を歌う詩１（1861 年創作の作品）
９　死を歌う詩２（1662 年創作の作品）
10　死を歌う詩３（1663 年創作の作品）
11　死を歌う詩４（1864-65 年創作の作品）
12　書簡に見る詩の要素１（T・W・ヒギンスン宛ての前期の手紙）
13　書簡に見る詩の要素２（T・W・ヒギンスン宛ての後期の手紙）
14　評論を読む
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
The Poems of Emily Dickinson, edited by R. W. Franklin 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学特論IVB				単位数	2単位
授業コード	M2116	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

本授業では、19 世紀アメリカの女性詩人エミリ・ディキンスンの形而上的な作品を中心に、英詩を研究する。イギリス形而上詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当発表・意見交換（20%）	1／2
2	小レポート（20%）	1／2
3	学期末レポート（60%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

南北戦争時における、永遠性を希求するイメジャリーを駆使したディキンスンの詩を取り上げ、現代詩に通じる技法を読み解く。

回
１　導入―詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介
２　自然詩講読１（1861 年創作の作品）
３　自然詩講読２（1662-63 年創作の作品）
４　自然詩講読３（1864-65 年創作の作品）
５　愛の詩講読１（1861 年創作の作品）
６　愛の詩講読２（1662-63 年創作の作品）
７　愛の詩講読３（1864-65 年創作の作品）
８　死を歌う詩１（1861 年創作の作品）
９　死を歌う詩２（1662 年創作の作品）
10　死を歌う詩３（1663 年創作の作品）
11　死を歌う詩４（1864-65 年創作の作品）
12　書簡に見る詩の要素１（T・W・ヒギンスン宛ての前期の手紙）
13　書簡に見る詩の要素２（T・W・ヒギンスン宛ての後期の手紙）
14　評論を読む
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
The Poems of Emily Dickinson, edited by R. W. Franklin 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

イギリス文学特論IIA				単位数	2単位
授業コード	M2120	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

ヴィクトリア朝後期を代表する作家Thomas HardyのThe Return of the Nativeを精読する。ダイアモンド商人として成功を収めながら、パリの都会暮らしに幻滅して故郷に戻ってきたクリムと、都会での華やかな生活に憧れ、彼との結婚によって田舎からの脱出を夢見る美貌のユーステイシア。食い違う二人の思惑が、当人や周囲の人々にもたらす悲劇を、エグドン・ヒースの不条理で冷酷な自然と人間との葛藤を通して描くこの物語からは、神なき世界で盲目の運命に翻弄される人間というハーディの世界観が読み取れるだろう。先行研究の押さえ方や作品解釈といった文学研究の基本的な方法を追求すると同時に、それらを自身の研究に応用する力を養うことを目指す。１期はBook IとBook IIを読む。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３．自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への積極的参加　２０％	1／2／3
2	発表　２０％	1／2／3
3	最終レポート６０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 作家紹介とハーディ研究の歴史
2. Book I Chapter 1:　エグドン・ヒース
3. Chapter 2:　代赭石売り
4. Chapter 3:　篝火
5. Chapter４:　ヨーブライト夫人
6. Chapter５:　トマシンとウァイルデーヴ
7. Chapter６:　密会
8. Chapter７:　ユーステイシア
9. Chapter 9 :　立ち聞き
10. Chapter 10 :　密約
11. Chapter11:　噂話
12. Book II Chapter 1:　クリムの帰還
13. Chapter 3 :　出会い
14. Chapter 4 :　仮面芝居
15. まとめとディスカッション

定期試験

１６週目に期末レポートを提出する

試験のフィードバックの方法

manabaや授業を通して適宜フィードバックを行う

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（６０分）
（事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（３０分）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

Thomas Hardy, The Return of the Native. Oxford World’s Classics. 2009. ISBN-10 : 0199537046 ISBN-13 : 978-0199537044（各自で授業開始までに購入のこと）
これ以外の参考書については適宜教室で配布、あるいは指示する。

オフィスアワー

随時。授業終了後やメール等で対応する。対面を希望する場合は、事前にメールで連絡して予約してください。

連絡先

niino_midori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。
原文に記された事象の背後にある歴史的、文化的事実についても研究書を参照しながら理解を深めておくことが望ましい。
自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。
授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

英米文学特論ＩＡ				単位数	2単位
授業コード	M2121	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

ヴィクトリア朝後期を代表する作家Thomas HardyのThe Return of the Nativeを精読する。ダイアモンド商人として成功を収めながら、パリの都会暮らしに幻滅して故郷に戻ってきたクリムと、都会での華やかな生活に憧れ、彼との結婚によって田舎からの脱出を夢見る美貌のユーステイシア。食い違う二人の思惑が、当人や周囲の人々にもたらす悲劇を、エグドン・ヒースの不条理で冷酷な自然と人間との葛藤を通して描くこの物語からは、神なき世界で盲目の運命に翻弄される人間というハーディの世界観が読み取れるだろう。先行研究の押さえ方や作品解釈といった文学研究の基本的な方法を追求すると同時に、それらを自身の研究に応用する力を養うことを目指す。１期はBook IとBook IIを読む。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３．自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への積極的参加　２０％	1／2／3
2	発表　２０％	1／2／3
3	最終レポート６０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 作家紹介とハーディ研究の歴史
2. Book I Chapter 1:　エグドン・ヒース
3. Chapter 2:　代赭石売り
4. Chapter 3:　篝火
5. Chapter４:　ヨーブライト夫人
6. Chapter５:　トマシンとウァイルデーヴ
7. Chapter６:　密会
8. Chapter７:　ユーステイシア
9. Chapter 9 :　立ち聞き
10. Chapter 10 :　密約
11. Chapter11:　噂話
12. Book II Chapter 1:　クリムの帰還
13. Chapter 3 :　出会い
14. Chapter 4 :　仮面芝居
15. まとめとディスカッション

定期試験

１６週目に期末レポートを提出する

試験のフィードバックの方法

manabaや授業を通して適宜フィードバックを行う

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（６０分）
（事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（３０分）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

Thomas Hardy, The Return of the Native. Oxford World’s Classics. 2009. ISBN-10 : 0199537046 ISBN-13 : 978-0199537044（各自で授業開始までに購入のこと）
これ以外の参考書については適宜教室で配布、あるいは指示する。

オフィスアワー

随時。授業終了後やメール等で対応する。対面を希望する場合は、事前にメールで連絡して予約してください。

連絡先

niino_midori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。
原文に記された事象の背後にある歴史的、文化的事実についても研究書を参照しながら理解を深めておくことが望ましい。
自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。
授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

イギリス文学特論IIB				単位数	2単位
授業コード	M2125	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

ヴィクトリア朝後期を代表する作家Thomas HardyのThe Return of the Nativeを精読する。ダイアモンド商人として成功を収めた華やかなパリでの暮らしに幻滅して故郷に戻ってきたクリムと、都会での華やかな生活に憧れ、彼との結婚によって故郷からの脱出を夢見る美貌で野心家のユーステイシア。二人のすれ違いの人生が、当人や周囲の人々にもたらす悲劇を、エグドン・ヒースの不条理で冷酷な自然と人間との葛藤を通して描く物語を精読する。神なき世界で盲目の運命に翻弄される人間を描くハーディ独自の世界観、自然観を深く理解するとともに、先行研究の押さえ方や作品解釈といった文学研究の基本的な方法を確認し、自身の研究に応用する力を養う。2期はBook III以降を読む。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.　ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.　先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3.　自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への積極的参加　２０％	1／2／3
2	発表　２０％	1／2／3
3	最終レポート６０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 前期のレポートに対するフィードバックと、Book IIについてのディスカッション
2. Book III Chapter1, 2: クリムと故郷
3. Chapter3 :　釣瓶
4. Chapter 4, 5 : 結婚
5. Chapter 6, 7 :　誘惑
6. Chapter８,9 :　賭博
7. Book IV Chapter 1, 2 : 誤解
8. Chapter 3, 4 : 不穏な出会い
9. Chapter 5,6 : 締め出し
10. Chapter 7,8 :　母の死
11. Book V Chapter1, 2 :秘密の発覚
12. Chapter 4, 5 :　疑惑
13. Chapter 6, 7 :　離別
14. Chapter 8, 9:　駆け落ち
15. まとめとディスカッション

定期試験
１６週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanabaを通して適宜フィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（６０分） （事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（３０分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Thomas Hardy, The Return of the Native. Oxford World’s Classics. 2009. ISBN-10 : 0199537046 ISBN-13 : 978-0199537044（第1期の「イギリス文学特論IIa」と同じ教科書。教科書を持っていない人は各自で購入のこと） その他必要な参考書については授業中に適宜紹介、配布する。
オフィスアワー
随時。授業終了後やメール等で受け付ける。対面を希望する場合は、以下のアドレスに事前に連絡し、予約してください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 １期の「イギリス文学特論IIa」で取り上げた部分については、第1回授業で説明するが、可能な限り１期のこの授業も履修していることが望ましい。 授業中に取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

英米文学特論ＩＢ				単位数	2単位
授業コード	M2126	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

ヴィクトリア朝後期を代表する作家Thomas HardyのThe Return of the Nativeを精読する。ダイアモンド商人として成功を収めた華やかなパリでの暮らしに幻滅して故郷に戻ってきたクリムと、都会での華やかな生活に憧れ、彼との結婚によって故郷からの脱出を夢見る美貌で野心家のユーステイシア。二人のすれ違いの人生が、当人や周囲の人々にもたらす悲劇を、エグドン・ヒースの不条理で冷酷な自然と人間との葛藤を通して描く物語を精読する。神なき世界で盲目の運命に翻弄される人間を描くハーディ独自の世界観、自然観を深く理解するとともに、先行研究の押さえ方や作品解釈といった文学研究の基本的な方法を確認し、自身の研究に応用する力を養う。2期はBook III以降を読む。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.　ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.　先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3.　自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への積極的参加　２０％	1／2／3
2	発表　２０％	1／2／3
3	最終レポート６０％	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 前期のレポートに対するフィードバックと、Book IIについてのディスカッション
2. Book III Chapter1, 2: クリムと故郷
3. Chapter3 :　釣瓶
4. Chapter 4, 5 : 結婚
5. Chapter 6, 7 :　誘惑
6. Chapter８,9 :　賭博
7. Book IV Chapter 1, 2 : 誤解
8. Chapter 3, 4 : 不穏な出会い
9. Chapter 5,6 : 締め出し
10. Chapter 7,8 :　母の死
11. Book V Chapter1, 2 :秘密の発覚
12. Chapter 4, 5 :　疑惑
13. Chapter 6, 7 :　離別
14. Chapter 8, 9:　駆け落ち
15. まとめとディスカッション

定期試験
１６週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanabaを通して適宜フィードバックを行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（事前学習）単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと（６０分） （事後学習）授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を、他者の解釈との比較も交えて確認しておく（３０分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Thomas Hardy, The Return of the Native. Oxford World’s Classics. 2009. ISBN-10 : 0199537046 ISBN-13 : 978-0199537044（第1期の「英米文学特論IIa」と同じ教科書。教科書を持っていない人は各自で購入のこと） その他必要な参考書については授業中に適宜紹介、配布する。
オフィスアワー
随時。授業終了後やメール等で受け付ける。対面を希望する場合は、以下のアドレスに事前に連絡し、予約してください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 １期の「イギリス文学特論IIa」で取り上げた部分については、第1回授業で説明するが、可能な限り１期のこの授業も履修していることが望ましい。 授業中に取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

イギリス文学特論IIIA				単位数	2単位
授業コード	M2130	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	松井　かや				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス・アイルランド文学				

本授業の概要

ジェイムズ・ジョイスの短篇集 Dubliners (1914) と、この作品の出版から100年後に刊行された Dubliners 100 (2014) から、いくつかの作品を選んで読む。ジョイスの Dubliners は15の作品で構成されており、Dubliners 100 には15人の現在活躍中のアイルランドの作家たちがオリジナルのそれぞれの作品に触発され、同じタイトルで書いた "new stories" が収められている。まずは20世紀初頭のアイルランドの歴史的・社会的状況を踏まえて Dubliners を読み、その後、Dubliners 100 において現代作家たちがどのようにジョイスの作品に「応答」しているのかを検討し、ジョイスを読むことの今日的な意義を考えたい。各作品に関する批評や書評も取り上げ、Dubliners を多角的に考察する。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	作品の背景や特徴、使用されている小説技法を理解し、説明することができる。	知識・技能
2	作品を批評的に読む視点を身につける。	思考・判断・表現力／主体性
3	作品から注目すべきテーマを抽出し、それについて自分の主張を論理的に展開できるようにする。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎回の授業準備および授業での意見発表：40%	1／2／3
2	最終レポート：60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第 1 回：イントロダクション、アイルランド文学概観
第 2 回：ジョイスとアイルランド
第 3 回："Araby" 前半（この回以降、毎回ディスカッションあり）
第 4 回："Araby" 後半
第 5 回：John Boyne, "Araby" 前半
第 6 回：John Boyne, "Araby" 後半
第 7 回："Eveline" 前半
第 8 回："Eveline" 後半
第 9 回：Donal Ryan, "Evelyn" 前半
第 10 回：Donal Ryan, "Evelyn" 後半
第 11 回："The Dead" 前半
第 12 回："The Dead" 後半
第 13 回：Peter Murphy, "The Dead" 前半
第 14 回：Peter Murphy, "The Dead" 後半
第 15 回：Dubliners と Dubliners 100 に関するまとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
［予習］その日の授業範囲を精読し、担当者はレジュメを作成する（1.5-2時間）。 ［復習］ディスカッションを通して出てきた疑問点などについて調べておく。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
James Joyce, Dubliners Thomas Morris ed., Dubliners 100 （履修者にはプリントを配布）
オフィスアワー
月曜5時限
連絡先
mkaya@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は、登録前に担当教員と面談すること（連絡先：mkaya@m.ndsu.ac.jp）

英米文学特論IIIＡ				単位数	2単位
授業コード	M2131	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	松井　かや				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス・アイルランド文学				

本授業の概要

ジェイムズ・ジョイスの短篇集 Dubliners (1914) と、この作品の出版から100年後に刊行された Dubliners 100 (2014) から、いくつかの作品を選んで読む。ジョイスの Dubliners は15の作品で構成されており、Dubliners 100 には15人の現在活躍中のアイルランドの作家たちがオリジナルのそれぞれの作品に触発され、同じタイトルで書いた "new stories" が収められている。まずは20世紀初頭のアイルランドの歴史的・社会的状況を踏まえて Dubliners を読み、その後、Dubliners 100 において現代作家たちがどのようにジョイスの作品に「応答」しているのかを検討し、ジョイスを読むことの今日的な意義を考えたい。各作品に関する批評や書評も取り上げ、Dubliners を多角的に考察する。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	作品の背景や特徴、使用されている小説技法を理解し、説明することができる。	知識・技能
2	作品を批評的に読む視点を身につける。	思考・判断・表現力／主体性
3	作品から注目すべきテーマを抽出し、それについて自分の主張を論理的に展開できるようにする。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎回の授業準備および授業での意見発表：40%	1／2／3
2	最終レポート：60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第 1 回：イントロダクション、アイルランド文学概観
第 2 回：ジョイスとアイルランド
第 3 回："Araby" 前半（この回以降、毎回ディスカッションあり）
第 4 回："Araby" 後半
第 5 回：John Boyne, "Araby" 前半
第 6 回：John Boyne, "Araby" 後半
第 7 回："Eveline" 前半
第 8 回："Eveline" 後半
第 9 回：Donal Ryan, "Evelyn" 前半
第 10 回：Donal Ryan, "Evelyn" 後半
第 11 回："The Dead" 前半
第 12 回："The Dead" 後半
第 13 回：Peter Murphy, "The Dead" 前半
第 14 回：Peter Murphy, "The Dead" 後半
第 15 回：Dubliners と Dubliners 100 に関するまとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
［予習］その日の授業範囲を精読し、担当者はレジュメを作成する（1.5-2時間）。 ［復習］ディスカッションを通して出てきた疑問点などについて調べておく。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
James Joyce, Dubliners Thomas Morris ed., Dubliners 100 （履修者にはプリントを配布）
オフィスアワー
月曜5時限
連絡先
mkaya@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は、登録前に担当教員と面談すること（連絡先：mkaya@m.ndsu.ac.jp）

イギリス文学特論IIIB				単位数	2単位
授業コード	M2135	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	松井　かや				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス・アイルランド文学				

本授業の概要

20 世紀アイルランドの作家エリザベス・ボウエンの短篇"The Demon Lover"を精読する。ボウエンは長く英国に暮らした作家であり、この短篇の舞台も第二次大戦中のロンドンである。この授業では、アングロ・アイリッシュという彼女の出自を踏まえ、アイルランド文学の伝統を彼女がいかに引き継いでいるのかという点にも着目しつつ、作品を読み解いていきたい。さらに、この短篇を収めた短篇集（The Demon Lover and Other Stories）にボウエン自身が寄せた序文と、この短篇に関する2つの批評を精読し、検討する。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	難解で知られるエリザベス・ボウエンの作品の精読を通して、英語力を増強する。	知識・技能
2	作品の背景や特徴、使用されている小説技法について説明できる。	知識・技能
3	批評の枠組みや方法を理解し、それらを用いて作品を論理的に分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎回の授業準備および授業での意見発表：40%	1／2／3
2	最終レポート：60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第 1 回：イントロダクション
第 2 回：“The Demon Lover” 精読、戦時の女性たち
第 3 回：“The Demon Lover” 精読、二つの大戦
第 4 回：“The Demon Lover” 精読、解釈の可能性
第 5 回：ボウエンの戦時短篇概観
第 6 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、ボウエンの戦時短篇
第 7 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、戦争を記録すること
第 8 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、想像力について
第 9 回：Calder 批評精読：議論の枠組み
第 10 回：Calder 批評精読：寓意
第 11 回：Calder 批評精読：解釈
第 12 回：Thompson 批評精読：ドッペルゲンガー
第 13 回：Thompson 批評精読：第三者の存在
第 14 回：Thompson 批評精読：解釈
第 15 回：まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
［予習］その日の授業範囲を精読し、担当者はレジュメを作成する（1.5-2時間）。 ［復習］ディスカッションを通して出てきた疑問点などについて調べておく。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Elizabeth Bowen, "The Demon Lover" Robert L. Calder, "'A More Sinister Troth: Elizabeth Bowen's 'The Demon Lover' as an Allegory" (1994) Terry W. Thompson, "'A Face You Do Not Expect': The Female Other in Elizabeth Bowen's 'The Demon Lover'" (2010) すべて教員が準備して配布する。
オフィスアワー
対面・メール等で随時質問や相談を受け付ける。
連絡先
mkaya@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は、登録前に担当教員と面談すること（連絡先：mkaya@m.ndsu.ac.jp）。

英米文学特論IIIＢ				単位数	2単位
授業コード	M2136	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	松井　かや				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス・アイルランド文学				

本授業の概要

20 世紀アイルランドの作家エリザベス・ボウエンの短篇"The Demon Lover"を精読する。ボウエンは長く英国に暮らした作家であり、この短篇の舞台も第二次大戦中のロンドンである。この授業では、アングロ・アイリッシュという彼女の出自を踏まえ、アイルランド文学の伝統を彼女がいかに引き継いでいるのかという点にも着目しつつ、作品を読み解いていきたい。さらに、この短篇を収めた短篇集（The Demon Lover and Other Stories）にボウエン自身が寄せた序文と、この短篇に関する2つの批評を精読し、検討する。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	難解で知られるエリザベス・ボウエンの作品の精読を通して、英語力を増強する。	知識・技能
2	作品の背景や特徴、使用されている小説技法について説明できる。	知識・技能
3	批評の枠組みや方法を理解し、それらを用いて作品を論理的に分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎回の授業準備および授業での意見発表：40%	1／2／3
2	最終レポート：60%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第 1 回：イントロダクション
第 2 回：“The Demon Lover” 精読、戦時の女性たち
第 3 回：“The Demon Lover” 精読、二つの大戦
第 4 回：“The Demon Lover” 精読、解釈の可能性
第 5 回：ボウエンの戦時短篇概観
第 6 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、ボウエンの戦時短篇
第 7 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、戦争を記録すること
第 8 回：The Demon Lover and Other Stories 序文精読、想像力について
第 9 回：Calder 批評精読：議論の枠組み
第 10 回：Calder 批評精読：寓意
第 11 回：Calder 批評精読：解釈
第 12 回：Thompson 批評精読：ドッペルゲンガー
第 13 回：Thompson 批評精読：第三者の存在
第 14 回：Thompson 批評精読：解釈
第 15 回：まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
［予習］その日の授業範囲を精読し、担当者はレジュメを作成する（1.5-2時間）。 ［復習］ディスカッションを通して出てきた疑問点などについて調べておく。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Elizabeth Bowen, "The Demon Lover" Robert L. Calder, "'A More Sinister Troth: Elizabeth Bowen's 'The Demon Lover' as an Allegory" (1994) Terry W. Thompson, "'A Face You Do Not Expect': The Female Other in Elizabeth Bowen's 'The Demon Lover'" (2010) すべて教員が準備して配布する。
オフィスアワー
対面・メールで随時質問や相談を受け付ける。
連絡先
mkaya@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は、登録前に担当教員と面談すること（連絡先：mkaya@m.ndsu.ac.jp）。

イギリス文学演習A				単位数	2単位
授業コード	M2140	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

イギリス小説を中心に、修士論文の課題の設定、受講生が選んだ作品やテーマに則した先行研究の洗い出し、さらに文献を批判的に読んで、自身の作品解釈と比較しつつ考察を深めていく方法を学ぶ。また、論文執筆に必要な様式についてのルールを踏まえて、先行研究を活用しつつ自身の考えを論理的に構成する方法を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３．文学研究に関する様々なアプローチの方法を理解している。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4.　必要な先行研究を的確に探し、それを批判的に評価できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業の積極的参加　20%	1／2／3／4
2	口頭発表　20%	1／2／3／4
3	期末レポート60%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2. 卒業論文についての口頭発表
3. 論文作成の方法(1)：テーマの設定と先行研究の調査
4. 論文作成の方法(2)：作品分析と文献の収集
5. 論文作成の方法(3) ： 論文の構成（アウトラインの作成）
6. 論文作成の方法(4)：論文の様式
7. 修士論文の研究課題
8. 主要文献の収集
9. アプローチの方法(1)： 批評理論講読（テキスト分析）
10. アプローチの方法(2)： 批評理論講読（cultural materialism）
11. アプローチの方法(3)： 批評理論講読（ジェンダー論）
12. 文献の評価(1)： 主要文献の講読（作品）
13. 文献の評価(2)： 主要文献の講読（歴史）
14. 文献の評価(3)： 主要文献の講読（語り）
15. 主要文献の書評(発表)

定期試験

第１６週にレポートを提出する

試験のフィードバックの方法

manabaなどを通して、適宜フィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

＜事前学習＞修士論文の執筆を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行うとともに、文学研究の基本的な方法を意識しつつ文献を読む（６０分）
＜事後学習＞授業で得た知識や与えられたコメントを自分なりに消化し、修士論文の構想を固め、執筆する。（６０分）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021.　ISBN-10　:　1603293515　ISBN-13　:　978-1603293518（受講者は各自購入のこと）
その他、批評理論についての必要文献と主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選んで、適宜プリント等を配布する。

オフィスアワー

随時。授業の前後やメール等で質問、相談があれば受け付ける。対面での相談を希望する場合は事前にメールで予約を取ってほしい。

連絡先

niino_midori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。
研究対象のテキストの講読や解釈の準備を余裕を持って十分に行うこと。

英米文学演習Ａ				単位数	2単位
授業コード	M2141	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

イギリス小説を中心に、修士論文の課題の設定、受講生が選んだ作品やテーマに則した先行研究の洗い出し、さらに文献を批判的に読んで、自身の作品解釈と比較しつつ考察を深めていく方法を学ぶ。また、論文執筆に必要な様式についてのルールを踏まえて、先行研究を活用しつつ自身の考えを論理的に構成する方法を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３．文学研究に関する様々なアプローチの方法を理解している。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4.　必要な先行研究を的確に探し、それを批判的に評価できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業の積極的参加　20%	1／2／3／4
2	口頭発表　20%	1／2／3／4
3	期末レポート60%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2. 卒業論文についての口頭発表
3. 論文作成の方法(1)：テーマの設定と先行研究の調査
4. 論文作成の方法(2)：作品分析と文献の収集
5. 論文作成の方法(3) ： 論文の構成（アウトラインの作成）
6. 論文作成の方法(4)：論文の様式
7. 修士論文の研究課題
8. 主要文献の収集
9. アプローチの方法(1)： 批評理論講読（テキスト分析）
10. アプローチの方法(2)： 批評理論講読（cultural materialism）
11. アプローチの方法(3)： 批評理論講読（ジェンダー論）
12. 文献の評価(1)： 主要文献の講読（作品）
13. 文献の評価(2)： 主要文献の講読（歴史）
14. 文献の評価(3)： 主要文献の講読（語り）
15. 主要文献の書評(発表)

定期試験
第１６週にレポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaなどを通して、適宜フィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜事前学習＞修士論文の執筆を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行うとともに、文学研究の基本的な方法を意識しつつ文献を読む（６０分） ＜事後学習＞授業で得た知識や与えられたコメントを自分なりに消化し、修士論文の構想を固め、執筆する。（６０分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021.　ISBN-10　:　1603293515　ISBN-13　:　978-1603293518（受講者は各自購入のこと） その他、批評理論についての必要文献と主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選んで、適宜プリント等を配布する。
オフィスアワー
随時。授業の前後やメール等で質問、相談があれば受け付ける。対面での相談を希望する場合は事前にメールで予約を取ってほしい。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。 研究対象のテキストの講読や解釈の準備を余裕を持って十分に行うこと。

イギリス文学演習B				単位数	2単位
授業コード	M2145	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

I期に引き続き、イギリス小説を中心に、受講生が選んだ修士論文の作品やテーマについて、収集した文献との対話を通して独自の解釈を深め、論文執筆のルールに則って、論理的かつ説得的に論を構築、展開する方法を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	３．必要な先行研究を批判的に評価して、独自の解釈を効果的に提示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4. 自身の解釈を論理的、説得的に構築し、英文でまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業の積極的参加　30%	1／2／3／4
2	口頭発表　20%	1／2／3／4
3	期末レポート50%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　I期のレポートのフィードバックとディスカッション
2.　参考文献表の作成　（仮）
3.　アウトラインの作成
4.　第一回中間発表
5.　英語論文の文体
6.　引用の方法
7.　第2回中間発表
8.　分析結果の吟味
9.　主要参考文献の評価
10.　第3回中間発表
11.　序論
12.　結論
13.　論文全体の見直し
14.　英文要旨の書き方
15.　まとめ

定期試験
第１６週に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaなどを通して、適宜フィードバックと行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜事前学習＞修士論文の執筆を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行うとともに、文学研究の基本的な方法を意識しつつ文献を読み、論文を構築する（６０分） ＜事後学習＞授業で得た知識や与えられたコメントを自分なりに消化し、修士論文の構想を固め、執筆する。（６０分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021.　ISBN-10　:　1603293515　ISBN-13　:　978-1603293518（受講者は各自購入のこと。ただし「イギリス文学演習A」の受講者は同じテキストなので新たに購入する必要はない） その他、主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選び、プリント等を配布する
オフィスアワー
随時。授業の前後やメール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメールで予約してほしい。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1期の「イギリス文学演習A」の授業を受講していることが望ましい。 授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。 研究対象のテキストの読解や解釈を余裕を持って十分に行うこと。

英米文学演習Ｂ				単位数	2単位
授業コード	M2146	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	新野　緑				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

I期に引き続き、イギリス小説を中心に、受講生が選んだ修士論文の作品やテーマについて、収集した文献との対話を通して独自の解釈を深め、論文執筆のルールに則って、論理的かつ説得的に論を構築、展開する方法を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．イギリス小説について独自の視点で適切な課題を設定できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	３．必要な先行研究を批判的に評価して、独自の解釈を効果的に提示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4. 自身の解釈を論理的、説得的に構築し、英文でまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業の積極的参加　30%	1／2／3／4
2	口頭発表　20%	1／2／3／4
3	期末レポート50%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　I期のレポートのフィードバックとディスカッション
2.　参考文献表の作成　（仮）
3.　アウトラインの作成
4.　第一回中間発表
5.　英語論文の文体
6.　引用の方法
7.　第2回中間発表
8.　分析結果の吟味
9.　主要参考文献の評価
10.　第3回中間発表
11.　序論
12.　結論
13.　論文全体の見直し
14.　英文要旨の書き方
15.　まとめ

定期試験
第１６週に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaなどを通して、適宜フィードバックと行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜事前学習＞修士論文の執筆を視野に入れながら、取り扱う作家、作品、テーマなどを具体的に絞り込み、自身の選んだ作家、作品、テーマに関連する必要文献のリサーチを行うとともに、文学研究の基本的な方法を意識しつつ文献を読み、論文を構築する（６０分） ＜事後学習＞授業で得た知識や与えられたコメントを自分なりに消化し、修士論文の構想を固め、執筆する。（６０分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021.　ISBN-10　:　1603293515　ISBN-13　:　978-1603293518（受講者は各自購入のこと。ただし「英米文学演習A」の受講者は同じテキストなので新たに購入する必要はない） その他、主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選び、プリント等を配布する
オフィスアワー
随時。授業の前後やメール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメールで予約してほしい。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1期の「英米文学演習A」の授業を受講していることが望ましい。 授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。 研究対象のテキストの読解や解釈を余裕を持って十分に行うこと。

イギリス文学演習A				単位数	2単位
授業コード	M2150	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

本授業では、イギリス・ロマン派詩人の代表的な作品を取り上げ、アメリカ女性詩人エミリ・ディキンスンの形而上的な詩への影響を見ていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文を論理的に分析することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	修士論文を書く力をつける。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当・発表（40%）	1／2
2	レポート（60%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　導入―ロマン派の時代と詩人たち
2　　William Wordsworth の作品講読 1「ルーシー」詩編（Lucy Poems）
3　William Wordsworth の作品講読 2 「ルーシー・グレイ」（“Lucy Gray”）
4　William Wordsworth の作品講読 3「カッコウに」（“To the Cuckoo”）
5　William Wordsworth の作品講読 4 ティンターン修道院の数マイル上流で書い
6　William Wordsworth の 作 品 講 読 5「 不 滅 の オ ー ド 」（“Ode: Intimations of Immortality”）
7　　John Keats の作品講読 1 「ギリシャ壺のオード」（ “Ode on a Grecian Urn” ）
8　John Keats の 作 品 講 読 2 「 ナイチンゲール に 寄 せるオ ード」（“Ode to a Nightingale”）
9　　John Keats の作品講読 3「秋に」（“To Autumn”）
10　　John Keats の作品講読 4　バラッド
11　　John Keats の作品講読 5　ソネット
12　　William Wordsworth の詩論 1（詩の主題）
13　　William Wordsworth の詩論 2（詩の読者）
14　　John Keats の手紙
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートを評価して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 授業でプリント配付。
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学演習Ａ				単位数	2単位
授業コード	M2151	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

本授業では、イギリス・ロマン派詩人の代表的な作品を取り上げ、アメリカ女性詩人エミリ・ディキンスンの形而上的な詩への影響を見ていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文を論理的に分析することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	修士論文を書く力をつける。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当・発表（40%）	1／2
2	レポート（60%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　導入―ロマン派の時代と詩人たち
2　　William Wordsworth の作品講読 1「ルーシー」詩編（Lucy Poems）
3　William Wordsworth の作品講読 2 「ルーシー・グレイ」（“Lucy Gray”）
4　William Wordsworth の作品講読 3「カッコウに」（“To the Cuckoo”）
5　William Wordsworth の作品講読 4 ティンターン修道院の数マイル上流で書い
6　William Wordsworth の 作 品 講 読 5「 不 滅 の オ ー ド 」（“Ode: Intimations of Immortality”）
7　　John Keats の作品講読 1 「ギリシャ壺のオード」（ “Ode on a Grecian Urn” ）
8　John Keats の 作 品 講 読 2 「 ナイチンゲール に 寄 せるオ ード」（“Ode to a Nightingale”）
9　　John Keats の作品講読 3「秋に」（“To Autumn”）
10　　John Keats の作品講読 4　バラッド
11　　John Keats の作品講読 5　ソネット
12　　William Wordsworth の詩論 1（詩の主題）
13　　William Wordsworth の詩論 2（詩の読者）
14　　John Keats の手紙
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートを評価して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 授業でプリント配付。
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

イギリス文学演習B				単位数	2単位
授業コード	M2155	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

本授業では、イギリス・ロマン派詩人の代表的な作品を取り上げ、アメリカ女性詩人エミリ・ディキンスンの形而上的な詩への影響を見ていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文を論理的に分析することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	修士論文を書く力をつける。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当・発表（40%）	1／2
2	レポート（60%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　導入―ロマン派の時代と詩人たち
2　　William Wordsworth の作品講読 1「ルーシー」詩編（Lucy Poems）
3　William Wordsworth の作品講読 2 「ルーシー・グレイ」（“Lucy Gray”）
4　William Wordsworth の作品講読 3「カッコウに」（“To the Cuckoo”）
5　William Wordsworth の作品講読 4 ティンターン修道院の数マイル上流で書い
6　William Wordsworth の 作 品 講 読 5「 不 滅 の オ ー ド 」（“Ode: Intimations of Immortality”）
7　　John Keats の作品講読 1 「ギリシャ壺のオード」（ “Ode on a Grecian Urn” ）
8　John Keats の 作 品 講 読 2 「 ナイチンゲール に 寄 せるオ ード」（“Ode to a Nightingale”）
9　　John Keats の作品講読 3「秋に」（“To Autumn”）
10　　John Keats の作品講読 4　バラッド
11　　John Keats の作品講読 5　ソネット
12　　William Wordsworth の詩論 1（詩の主題）
13　　William Wordsworth の詩論 2（詩の読者）
14　　John Keats の手紙
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートを評価して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 授業でプリント配付。
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学演習Ｂ				単位数	2単位
授業コード	M2156	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	イギリス文学				

本授業の概要

本授業では、イギリス・ロマン派詩人の代表的な作品を取り上げ、アメリカ女性詩人エミリ・ディキンスンの形而上的な詩への影響を見ていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語で書かれた韻文を論理的に分析することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	修士論文を書く力をつける。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	担当・発表（40%）	1／2
2	レポート（60%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　導入―ロマン派の時代と詩人たち
2　　William Wordsworth の作品講読 1「ルーシー」詩編（Lucy Poems）
3　William Wordsworth の作品講読 2 「ルーシー・グレイ」（“Lucy Gray”）
4　William Wordsworth の作品講読 3「カッコウに」（“To the Cuckoo”）
5　William Wordsworth の作品講読 4 ティンターン修道院の数マイル上流で書い
6　William Wordsworth の 作 品 講 読 5「 不 滅 の オ ー ド 」（“Ode: Intimations of Immortality”）
7　　John Keats の作品講読 1 「ギリシャ壺のオード」（ “Ode on a Grecian Urn” ）
8　John Keats の 作 品 講 読 2 「 ナイチンゲール に 寄 せるオ ード」（“Ode to a Nightingale”）
9　　John Keats の作品講読 3「秋に」（“To Autumn”）
10　　John Keats の作品講読 4　バラッド
11　　John Keats の作品講読 5　ソネット
12　　William Wordsworth の詩論 1（詩の主題）
13　　William Wordsworth の詩論 2（詩の読者）
14　　John Keats の手紙
15　まとめ

定期試験
16　レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートを評価して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。（1時間） 2. 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。（30分） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 詩の技巧をノートに書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 授業でプリント配付。
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

アメリカ文学特論IA				単位数	2単位
授業コード	M2210	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

本授業では、北米女性作家の一人、L・M・モンゴメリ 作『ニュー・ムーン農場のエミリー（可愛いエミリー）』(Emily of New Moon, 1923)の〈前半〉を取り上げ、カナダ文学を研究する。刊行百周年を迎える本作品を精読・分析し、どのように読まれ、批評されてきたかをも考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	カナダ小説の特性を読解し、転機を解説することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ハンドアウトを作成し、口頭発表を効果的に行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	作品の書かれた文化的・社会的な背景を理解し、その特性を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	本作品の時代性と普遍性を見極め、文章で論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講への取り組み・授業での担当発表・意見交換　20%	1／2／3
2	課題小レポート 20%	1／3／4
3	学期末におけるレポート　60%	1／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　Ⅰ. はじめに
　　導入―作家の生涯と主要作品、カナダ文学史における位置づけ
2　　研究をする上での留意点（自伝的スケッチと日誌）

3　Ⅱ. 作品鑑賞
　　第1章: Emily's"flash"
4　　第2章: Douglas Starr's legacy and Emily's Scotish ancesters
5　　第3章: The Murrays
6　　第4章: A surprise at a Family Conclave
7　　第5-6章: Aunt Elizabeth and New Moon farm
8　　第7-8章: The histry of the Murray clan and the Blair Water school
9　　第9-10章: "Letter-bills" and the Murray look
10　　第11章: Ilse Burnley
11　　第12章: Teddy Kent
12　　第13章: Lofty John's apples
13　　第14章: Cousin Jimmy's poetry-reading and his audience
14　　第15章: Perry Miller

15　III. 前半のまとめ
　　評論を読む

定期試験
レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートを評価して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・文化的背景を把握する。（30分） 2. まとめのハンドアウトを作成する。（1時間） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 引用に足る一節を書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 Montgomery, L. M.　Emily of New Moon.　Tundra Books, 2014.　ISBN 9781770497474 入手方法は授業で指示する。 〈参考書〉 授業中に指示する。
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

アメリカ文学特論IB				単位数	2単位
授業コード	M2215	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	赤松　佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

本授業では、北米女性作家の一人、L・M・モンゴメリ 作『ニュー・ムーン農場のエミリー（可愛いエミリー）』(Emily of New Moon, 1923)の〈後半〉を取り上げ、カナダ文学を研究する。刊行百周年を迎える本作品を精読・分析し、どのように読まれ、批評されてきたかをも考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	カナダ小説の特性を読解し、転機を解説することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ハンドアウトを作成し、口頭発表を効果的に行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	作品の書かれた文化的・社会的な背景を理解し、その特性を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	本作品の時代性と普遍性を見極め、文章で論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講への取り組み・授業での担当発表・意見交換　20%	1／2／3
2	課題小レポート 20%	1／3／4
3	学期末におけるレポート　60%	1／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　Ⅰ. はじめに
　　作品の前半を振り返って

2　Ⅱ. 作品鑑賞

　　第16-17章: Miss Brownell vs. Emily
3　　第18-19章: Father Cassidy
4　　第20-21章: Emily's letters to Douglas Starr
5　　第22-23章: Summer stays at Great-Aunt Nancy's Wyther Grange
6　　第24-25章: Happiness and tragedy
7　　第26-27章: Dean Priest
8　　第28章: Mr. Carpenter, a weaver of dreams
9　　第29章: Aunt Elizabeth vs. Emily
10　　第30-31章: Emily's second sight and great moment

11　III. 終わりに
　　後半のまとめと全体像の把握
12　　1) 批評と評価
13　　2) 評論の読み方①
14　　評論の読み方②
15　　評論の読み方③

定期試験
レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートを評価して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
〈予習〉 1. 語句の予習・文化的背景を把握する。（30分） 2. まとめのハンドアウトを作成する。（1時間） 〈復習〉 1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。（30分） 2. 引用に足る一節を書き出す。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 Montgomery, L. M.　Emily of New Moon.　Tundra Books, 2014.　ISBN 9781770497474 入手方法は授業で指示する。 〈参考書〉 授業中に指示する。
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

アメリカ文学特論IIA				単位数	2単位
授業コード	M2220	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	里内　克巳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

この授業では、〈ハーレム・ルネサンス〉と呼ばれる1920年代に起こった文化運動を中心に、アフリカ系アメリカ文学への理解を深める作業を行なう。小説ジャンルに関しては Nella Larsen (1891-1964)に焦点を当て、その代表作である短めの長編小説_Passing_(1929)を精読しながら受講者と議論を行なっていく。それに加えて、Paul Laurence Dunbar (1872-1906), Langston Hughes (1901-1967), Gwendolyn Brooks (1917-2000)などによる詩作品を読むことで、アフリカ系アメリカ人とその文学の歴史的流れを辿る。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	アフリカ系アメリカ人の歴史について概略を説明できる。	知識・技能／主体性
2	アフリカ系アメリカ文学・文化の特徴（特に20世紀前半）について説明できる。	知識・技能／主体性
3	英語で書かれた様々なタイプの文学作品を分析し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（80%） 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。	1／2／3
2	学期末レポート（20%） レポートについては、授業が半分まで進んだ６月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　Passing ①，Phillis Wheatleyの詩
第 3 回　Passing ②，Francis Harperの詩
第 4 回　Passing ③，Paul Laurence Dunbarの詩①
第 5 回　Passing ④，Paul Laurence Dunbarの詩②
第 6 回　Passing ⑤，Paul Laurence Dunbarの詩③
第 7 回　Passing ⑥，James Weldon Johnsonの詩
第 8 回　Passing ⑦，Langston Hughesの詩①
第 9 回　Passing ⑧，Langston Hughesの詩②
第 10 回　Passing ⑨，Langston Hughesの詩③
第 11 回　Passing ⑩，Claude McKayの詩
第 12 回　Passing ⑪，Countee Cullenの詩
第 13 回　Passing ⑫，Gwendolyn Brooksの詩①
第 14 回　Passing ⑬，Gwendolyn Brooksの詩②
第 15 回　振り返り（講義）

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、１回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（必携書） Nella Larsen, _Passing_(The Penguin English Library) ISBN-13: 978-0241472712 （参考書） ネラ・ラーセン（作）、鵜殿えりか（訳）、『パッシング/ 流砂にのまれて』（みすず書房、2022年）
オフィスアワー
授業終了後、またはメールで質問等を受け付けます。
連絡先
satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

英米文学特論VA				単位数	2単位
授業コード	M2221	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	里内　克巳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

この授業では、〈ハーレム・ルネサンス〉と呼ばれる1920年代に起こった文化運動を中心に、アフリカ系アメリカ文学への理解を深める作業を行なう。小説ジャンルに関しては、Nella Larsen (1891-1964)に焦点を当て、その代表作である短めの長編小説_Passing_(1929)を精読しながら受講者と議論を行なっていく。それに加えて、Paul Laurence Dunbar (1872-1906), Langston Hughes (1901-1967), Gwendolyn Brooks (1917-2000)などによる詩作品を読むことで、アフリカ系アメリカ人とその文学の歴史的歩みを辿る。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	アフリカ系アメリカ人の歴史について概略を説明できる。	知識・技能／主体性
2	アフリカ系アメリカ文学・文化の特徴（特に20世紀前半）について説明できる。	知識・技能／主体性
3	英語で書かれた様々なタイプの文学作品を分析し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（80%） 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。	1／2／3
2	学期末レポート（20%） レポートについては、授業が半分まで進んだ6月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライディング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　Passing ①，Phillis Wheatleyの詩
第 3 回　Passing ②，Francis Harperの詩
第 4 回　Passing ③，Paul Laurence Dunbarの詩①
第 5 回　Passing ④，Paul Laurence Dunbarの詩②
第 6 回　Passing ⑤，Paul Laurence Dunbarの詩③
第 7 回　Passing ⑥，James Weldon Johnsonの詩
第 8 回　Passing ⑦，Langston Hughesの詩①
第 9 回　Passing ⑧，Langston Hughesの詩②
第 10 回　Passing ⑨，Langston Hughesの詩③
第 11 回　Passing ⑩，Claude McKayの詩
第 12 回　Passing ⑪，Countee Cullenの詩
第 13 回　Passing ⑫，Gwendolyn Brooksの詩①
第 14 回　Passing ⑬，Gwendolyn Brooksの詩②
第 15 回　振り返り（講義）

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、１回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（必携書） Nella Larsen, _Passing_(The Penguin English Library) ISBN-13: 978-0241472712 （参考書） ネラ・ラーセン（作）、鵜殿えりか（訳）、『パッシング/ 流砂にのまれて』（みすず書房、2022年）
オフィスアワー
授業の終了後、またはメールで質問を受け付ける。
連絡先
satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

アメリカ文学特論IIB				単位数	2単位
授業コード	M2225	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	里内　克巳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

この授業では、20世紀初期の時代を中心に、アメリカの女性作家による文学への理解を深める演習を行なう。小説ジャンルに関してはEdith Wharton (1862-1937)に焦点を当て、中期の代表作である短めの長編_Summer_(1917)を精読しながら受講者と議論を行なっていく。それに加えて、Emily Dickinson (1830-1886), Edna St. Vincent Millay (1892-1950), Elizabeth Bishop (1911-1970)などによる詩作品に触れることで、女性の書き手がアメリカの文学や文化において果たしてきた役割について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	性差という観点から眺めたアメリカの歴史について概略を説明できる。	知識・技能／主体性
2	特に20世紀前半に重点を置いて、アメリカ文学・文化の時代ごとの特徴について説明できる。	知識・技能／主体性
3	英語で書かれた様々なタイプの文学作品を分析し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（80%） 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。	1／2／3
2	学期末レポート（20%） レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライディング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　Edith Wharton_Summer_ch.1
第 3 回　Edith Wharton_Summer_ch.2,3
第 4 回　Edith Wharton_Summer_ch.4,5
第 5 回　Edith Wharton_Summer_ch.6
第 6 回　Edith Wharton_Summer_ch.7
第 7 回　Edith Wharton_Summer_ch.8
第 8 回　Edith Wharton_Summer_ch.9
第 9 回　Edith Wharton_Summer_ch.10,11
第 10 回　Edith Wharton_Summer_ch.12
第 11 回　Edith Wharton_Summer_ch.13,14
第 12 回　Edith Wharton_Summer_ch.15
第 13 回　Edith Wharton_Summer_ch.16
第 14 回　Edith Wharton_Summer_ch.17,18
第 15 回　振り返り（講義）

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、１回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（必携書） Edith Wharton, _Summer_(Oxford World's Classics) ISBN-13: 978-0-19-870998-5 （参考書） イーディス・ウォートン（作）、山口ヨシ子、石井幸子（訳）、『夏』（彩流社、2022年）
オフィスアワー
授業終了後、またはメールにより質問を受け付ける。
連絡先
satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

英米文学特論VB				単位数	2単位
授業コード	M2226	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	里内　克巳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

この授業では、20世紀初期の時代を中心に、アメリカの女性作家による文学への理解を深める演習を行なう。小説ジャンルに関してはEdith Wharton (1862-1937)に焦点を当て、中期の代表作である短めの長編_Summer_(1917)を精読しながら受講者と議論を行なっていく。それに加えて、Emily Dickinson (1830-1886), Edna St. Vincent Millay (1892-1950), Elizabeth Bishop (1911-1970)などによる詩作品に触れることで、女性の書き手がアメリカの文学や文化において果たしてきた役割について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	性差という観点から眺めたアメリカの歴史について概略を説明できる。	知識・技能／主体性
2	特に20世紀前半に重点を置いて、アメリカ文学・文化の時代ごとの特徴について説明できる。	知識・技能／主体性
3	英語で書かれた様々なタイプの文学作品を分析し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（80%） 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。	1／2／3
2	学期末レポート（20%） レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライディング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　Edith Wharton_Summer_ch.1
第 3 回　Edith Wharton_Summer_ch.2,3
第 4 回　Edith Wharton_Summer_ch.4,5
第 5 回　Edith Wharton_Summer_ch.6
第 6 回　Edith Wharton_Summer_ch.7
第 7 回　Edith Wharton_Summer_ch.8
第 8 回　Edith Wharton_Summer_ch.9
第 9 回　Edith Wharton_Summer_ch.10,11
第 10 回　Edith Wharton_Summer_ch.12
第 11 回　Edith Wharton_Summer_ch.13,14
第 12 回　Edith Wharton_Summer_ch.15
第 13 回　Edith Wharton_Summer_ch.16
第 14 回　Edith Wharton_Summer_ch.17,18
第 15 回　振り返り（講義）

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業では、指定された作品をあらかじめきちんと読み、自分なりに消化したうえで授業に臨むのが大前提となる。英語を読み慣れた受講者でも、１回の授業について4時間程度の準備時間をかけ、じっくりと読んできてほしいので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（必携書） Edith Wharton, _Summer_(Oxford World's Classics) ISBN-13: 978-0-19-870998-5 （参考書） イーディス・ウォートン（作）、山口ヨシ子、石井幸子（訳）、『夏』（彩流社、2022年）
オフィスアワー
授業終了後、またはメールにより質問を受け付ける。
連絡先
satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

アメリカ文学特論IIIA				単位数	2単位
授業コード	M2230	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

This course will provide an introduction to critical and literary theory. We will begin with the ancient Greeks and end with theory of the early 20th century. These critical tools are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to recognize and explain in English important theoretical approaches.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to apply in English important theoretical approaches to literary texts and other cultural products.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly presentations and reports (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction to critical theory
2. Critical theory terms and methods
3. Classical tradition: Plato’s “Allegory of the Cave”
4. Classical tradition: Aristotle’s Poetics
5. Renaissance tradition
6. Sidney, “Defense of Poetry”
7. Romantic tradition
8. Poe’s Philosophy and Practice
9. Late 19th century tradition
10. Early 20th century tradition
11. New Criticism: historical background
12. New Criticism: application and methodology
13. Russian Formalism
14. Bakhtin and Dialogism: historical background
15. Bakhtin and Dialogism: application and methodology

定期試験
Final 15-page essay due in week 16.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
Prints will be provided.
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英米文学特論IIA					単位数	2単位
授業コード	M2231	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	David Ramsey					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	英米文学					

本授業の概要

This course will provide an introduction to critical and literary theory. We will begin with the ancient Greeks and end with theory of the early 20th century. These critical tools are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to recognize and explain in English important theoretical approaches.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to apply in English important theoretical approaches to literary texts and other cultural products.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly presentations and reports (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction to critical theory
2. Critical theory terms and methods
3. Classical tradition: Plato’s “Allegory of the Cave”
4. Classical tradition: Aristotle’s Poetics
5. Renaissance tradition
6. Sidney, “Defense of Poetry”
7. Romantic tradition
8. Poe’s Philosophy and Practice
9. Late 19th century tradition
10. Early 20th century tradition
11. New Criticism: historical background
12. New Criticism: application and methodology
13. Russian Formalism
14. Bakhtin and Dialogism: historical background
15. Bakhtin and Dialogism: application and methodology

定期試験
Final 15-page essay due in week 16.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
Prints will be provided.
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

アメリカ文学特論IIIB				単位数	2単位
授業コード	M2235	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

This course continues our introduction to critical and literary theory. We will begin with theory of the mid-20th century and continue through to current and emerging theories and approaches today, including theories concerning race, class, gender, and environmental and ecological approaches. These critical tools are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to recognize and explain in English important theoretical approaches.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to apply in English important theoretical approaches to literary texts and other cultural products.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly presentations and reports (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction: Race, Class, and Gender; Eco Criticism
3. Race and writing: historical background
4. Race and writing: application and methodology
5. Race and writing: practicum
6. Class and Marxist approaches: historical background
7. Class and Marxist approaches: application and methodology
8. Class and Marxist approaches: practicum
9. Feminism: historical background
10. Feminism: application and methodology
11. Feminism: practicum
12. Eco-criticism: historical background
13. Eco-criticism: application and methodology
14. Eco-criticism: practicum
15. Review and theoretical prospects.

定期試験
Final 15-page essay due in week 16.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
Prints will be provided.
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英米文学特論IIＢ				単位数	2単位
授業コード	M2236	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

This course continues our introduction to critical and literary theory. We will begin with theory of the mid-20th century and continue through to current and emerging theories and approaches today, including theories concerning race, class, gender, and environmental and ecological approaches. These critical tools are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to recognize and explain in English important theoretical approaches.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to apply in English important theoretical approaches to literary texts and other cultural products.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly presentations and reports (40%)	1／2
3	Final 15-page essay	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction: Race, Class, and Gender; Eco Criticism
3. Race and writing: historical background
4. Race and writing: application and methodology
5. Race and writing: practicum
6. Class and Marxist approaches: historical background
7. Class and Marxist approaches: application and methodology
8. Class and Marxist approaches: practicum
9. Feminism: historical background
10. Feminism: application and methodology
11. Feminism: practicum
12. Eco-criticism: historical background
13. Eco-criticism: application and methodology
14. Eco-criticism: practicum
15. Review and theoretical prospects

定期試験
Final 15-page essay due in week 16.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
Prints will be provided.
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

アメリカ文学演習A				単位数	2単位
授業コード	M2250	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

This class provides an introduction to theories of race and ethnicity, with practical application of these theories to primary works. These theories can be seen as critical tools. They are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Graduate students will be able to recognize and summarize in English critical theories of race and ethnicity.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Graduate students will be able to apply in English critical theories of race and ethnicity in their literary and cultural studies research.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly presentations and reports (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction: Race, Ethnicity, and Critical Theory
2. Werner Sollors, “Foreword: Theories of Ethnicity” : Race and Ethnicity (1996 ; Theories of Ethnicity xxix-xxxv)
3. Pierre Van den Berghe, “Does Race Matter?” (1995; Ethnicity 57-63)
4. Analysis and summary of Sollors’ and Van den Berghe’s texts
5. Application of race/ethnicity theory to primary work (art)
6. Fredrick Barth, “Ethnic Groups and Boundaries” (1969; Ethnicity 75-82)
7. Joshua Fishman, “Race as Being, Doing, Knowing” (1980; Ethnicity 63-69)
8. Analysis and summary of Barth’s and Fishman’s texts
9. Application of race/ethnicity theory to primary work (film)
10. Tonkin, McDonald and Chapman, “History and Ethnicity” (Ethnicity 18-24)
11. Werner Sollors, Beyond Ethnicity (selections)
12. Analysis and summary of Sollors’ and Tonkin et al’s texts
13. Application of race/ethnicity theory to primary work (literature)
14. Review of theory and scholarship
15. Final presentation, essay preparation

定期試験
Final 15-page essay due week 16.
試験のフィードバックの方法
Feedback on weekly presentations and reports will be provided in each class; feedback on final report will be provided in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before each class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
Prints will be provided.
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英米文学演習Ａ				単位数	2単位
授業コード	M2251	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

This class provides an introduction to theories of race and ethnicity, with practical application of these theories to primary works. These theories can be seen as critical tools. They are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Graduate students will be able to recognize and summarize in English critical theories of race and ethnicity.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Graduate students will be able to apply in English critical theories of race and ethnicity in their literary and cultural studies research.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly presentations and reports (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction: Race, Ethnicity, and Critical Theory
2. Werner Sollors, “Foreword: Theories of Ethnicity” : Race and Ethnicity (1996 ; Theories of Ethnicity xxix-xxxv)
3. Pierre Van den Berghe, “Does Race Matter?” (1995; Ethnicity 57-63)
4. Analysis and summary of Sollors’ and Van den Berghe’s texts
5. Application of race/ethnicity theory to primary work (art)
6. Fredrick Barth, “Ethnic Groups and Boundaries” (1969; Ethnicity 75-82)
7. Joshua Fishman, “Race as Being, Doing, Knowing” (1980; Ethnicity 63-69)
8. Analysis and summary of Barth’s and Fishman’s texts
9. Application of race/ethnicity theory to primary work (film)
10. Tonkin, McDonald and Chapman, “History and Ethnicity” (Ethnicity 18-24)
11. Werner Sollors, Beyond Ethnicity (selections)
12. Analysis and summary of Sollors’ and Tonkin et al’s texts
13. Application of race/ethnicity theory to primary work (literature)
14. Review of theory and scholarship
15. Final presentation, essay preparation

定期試験
Final 15-page essay due in week 16.
試験のフィードバックの方法
Feedback on weekly presentations and reports will be provided during class; feedback on final essay will be provided in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students must prepare their homework before class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
Prints will be provided.
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

アメリカ文学演習B				単位数	2単位
授業コード	M2255	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	アメリカ文学				

本授業の概要

This class provides an introduction to theories of African American racial and cultural identity. These theories can be seen as critical tools. They are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to explain and provide an outline of different theories of African American racial and cultural identity.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to apply various theories of African American racial and cultural identity to literary texts and other cultural constructs.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly reports, presentations (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction; Winthrop D. Jordan, White Over Black (1968; 3-20)
2. Winthrop D. Jordan, White Over Black (1968; 228-59)
3. W.E.D. Du Bois, “Double Consciousness” (1897/1903)
4. Charles W. Chesnutt, “The Future American” (1900; Theories of Ethnicity 17-33)
5. Jean Toomer, “Race Problems and Modern Society” (1929; Theories of Ethnicity 172-185)
6. Richard Wright, “Blueprint for Negro Writing” (1937)
7. Review and application of theory
8. From Jim Crow to Civil Rights: The Black Voice, The Black Aesthetic
9. Barbara Christian, “The Race for Theory” (1986/1990; from NCMD 37-49)
10. Henry Louis Gates, Jr., “Authority, (White) Power, and the (Black) Critic: It’s All Greek to Me” (1986/1990; from NCMD 72-101)
11. Henry Louis Gates, Jr. The Signifying Monkey (1988; 2014 ed. 9-16; 184-199)
12. Cornel West, Race Matters (1993; 2017 ed.; 1-31)
13. Aoi Mori, Toni Morrison and Womanist Discourse (1999; 1-20)
14. Review of theory and scholarship
15. Final presentation, essay preparation

定期試験
Final 15-page essay due week 16.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students need to do their reading and prepare their homework ahead of class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英米文学演習Ｂ				単位数	2単位
授業コード	M2256	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	David Ramsey				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				

本授業の概要

This class provides an introduction to theories of African American racial and cultural identity. These theories can be seen as critical tools. They are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to explain and provide an outline of different theories of African American racial and cultural identity.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to apply various theories of African American racial and cultural identity to literary texts and other cultural constructs.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Active class participation (30%)	1／2
2	Weekly reports, presentations (40%)	1／2
3	Final 15-page essay (30%)	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	All instruction and materials are in English.

授業予定一覧

1. Introduction; Winthrop D. Jordan, White Over Black (1968; 3-20)
2. Winthrop D. Jordan, White Over Black (1968; 228-59)
3. W.E.D. Du Bois, “Double Consciousness” (1897/1903)
4. Charles W. Chesnutt, “The Future American” (1900; Theories of Ethnicity 17-33)
5. Jean Toomer, “Race Problems and Modern Society” (1929; Theories of Ethnicity 172-185)
6. Richard Wright, “Blueprint for Negro Writing” (1937)
7. Review and application of theory
8. From Jim Crow to Civil Rights: The Black Voice, The Black Aesthetic
9. Barbara Christian, “The Race for Theory” (1986/1990; from NCMD 37-49)
10. Henry Louis Gates, Jr., “Authority, (White) Power, and the (Black) Critic: It’s All Greek to Me” (1986/1990; from NCMD 72-101)
11. Henry Louis Gates, Jr. The Signifying Monkey (1988; 2014 ed. 9-16; 184-199)
12. Cornel West, Race Matters (1993; 2017 ed.; 1-31)
13. Aoi Mori, Toni Morrison and Womanist Discourse (1999; 1-20)
14. Review of theory and scholarship
15. Final presentation, essay preparation

定期試験
Final 15-page essay due week 16.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students need to do their reading and prepare their homework ahead of class (4 hours reading, 1 hour writing).
必携書（教科書販売）
Prints will be provided.
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
Tues 2:45-4:15, and by appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Students are encouraged to read the material more fully on their own, both in English and in Japanese. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class . If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英語学言語学特論IA				単位数	2単位
授業コード	M2310	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

本授業では、第二言語語用論（Second Language Pragmatics）の観点から、外国語指導の現場において、学習者のコミュニケーション能力を高めるために何をどこまで指導すべきかを考察する。今期は、言語相互行為の中で示される認識的スタンス標識（epistemic stance marker)に関する先行研究を読み、相互行為能力の発達という観点から見た語学指導と語学学習における課題を考える。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	当該トピックに関する基本的概念と理論を理解することができる。	知識・技能
2	外国語教育における当該トピックの課題を見つけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	関連する文献を正しく理解し、発表・論文作成ができる英語力が身についている。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加　20%	1／2／3
2	発表　30%	1／2／3
3	論文　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. Introduction
2. The grammatical marking of stance
3. Doubt and uncertainty 1
4. Doubt and uncertainty 2
5. Propositional talk and the acquisition of modality 1
6. Propositional talk and the acquisition of modality 2
7. □I think’ as an English modal particle 1
8. □I think’ as an English modal particle 2
9. □I think’ and ‘I don’t know’ in English as lingua franca 1
10. □I think’ and ‘I don’t know’ in English as lingua franca 2
11. Stance and engagement 1
12. Stance and engagement 2
13. Stance in spoken and written university registers 1
14. Stance in spoken and written university registers 2
15. Epistemic forms by Japanese EFL learners

定期試験
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を読んで理解し、発表の準備をする。（3時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献・資料は授業中に提示・配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。

英語学言語学特論IB				単位数	2単位
授業コード	M2315	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

本授業では、中間言語語用論（Interlanguage Pragmatics）や異文化間語用論（Cross-cultural Pragmatics）と呼ばれる分野の基礎を学び、外国語指導における語用論の研究・理論と実践について考察する。今期は、『多文化理解の語学教育』(石原・コーエン)を輪読し、語学指導と語学学習における語用論的視点とは何かを考える。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	語用論の基礎的な概念と理論が理解できる。	知識・技能
2	外国語教育における語用論的指導についての知識を深めることができる。	知識・技能
3	関連する文献を正しく理解し、発表・論文作成ができる英語力を身についている。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加　20%	1／2／3
2	発表　30%	1／2／3
3	論文　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．Introduction
２．語用論の基礎概念
３．教員の語用論
４．語用論的言語データの収集１
５．語用論的言語データの収集２
６．語用論的ことばの使い方　１
７．語用論的ことばの使い方　２
８．学習者の語用論
９．第二言語習得理論と語用論的指導
10．語用論的指導の授業見学と指導例１
11．語用論的指導の授業見学と指導例２

12．語用論的指導に向けた教材の改訂
13．語用論的指導のためのカリキュラム編成

14．学習者の自律と語用論的学び

15．語用論的能力の評価

定期試験
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解しまとめを発表できるように準備する（3時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Ishihara, Noriko and Andrew D. Cohen (2010) Teaching and Learning Pragmatics: Where Language and Culture Meet. Routledge. 石原紀子（編著）2015)『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』研究社 ＊ その他の参考文献・資料は授業中に提示・配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。

英語学言語学特論IIA				単位数	2単位
授業コード	M2320	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	坂口　真理				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

本授業では、副詞類について、書かれた英語の文献を読むことによって、分析の基礎となる統語理論と意味理論を学ぶ。英語の副詞の機能的・意味的分析を扱った Greenbaum の古典的文献を批判的に読んでいく。また、日英語比較対象の視点から、彼の副詞の分類が日本語の副詞にも適用できるか考察する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．英語の副詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表 (30%)	1／2
2	レポート課題　(70%)	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．研究の範囲と方法
２．副詞の分類 (conjuncts, disjuncts, and adjuncts) とその基準
３．Conjuncts の意味的分類と統語的特徴
４．Enumerative conjuncts
５．Additive conjuncts (again, also, then, etc.)
６．Transitional conjuncts (incidentally, now, etc.)
７．Contrastive conjuncts
８．Concessive conjuncts (only, else, yet, nevertheless, still, however, etc.)
９．Illative conjuncts (so, hence, therefore, etc.)
10. Inferential conjuncts (then, else, otherwise)
11. Style disjuncts (honestly, frankly/ personally, generally) の統語的特徴
12. Attitudinal disjuncts の分類と特徴
13. (not) unexpectedly, ideally, predictably, preferably, maybe, likely
14. Attitudinal disjuncts と adjuncts との違い
15. 日本語との比較対照とまとめ

定期試験
期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
レポートにコメントをして返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題を読み質問やコメントができるように予習してください。(週3時間)
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業で読む文献は、教員が用意する。 Greenbaum, Sidney (1969) Studies in English Adverbial Usage, Longman: London.
オフィスアワー
予約してください。
連絡先
maris@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。

英語学言語学特論IIB				単位数	2単位
授業コード	M2325	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	坂口　真理				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

1 期で取り上げた Greenbaum の副詞の文法機能について文献をさらに読み進めていく。彼の分析が各受講者の研究とどのような関わりを持つかについて、議論を深めていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．英語の副詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	３．研究の対象となる資料を収集し、文献で学んだ理論を使って意味的分析ができるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表 (30%)	1／2／3
2	レポート課題　(70%)	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．1 期の課題レポートについての受講者による中間発表
２．Temporal disjuncts (rarely, usually, conventionally, traditionally, preferably)
３．Temporal disjuncts (usually and often)
４．Attitudinal disjuncts の位置、区切り方、音調
５．Attitudinal disjuncts が関わる構造
６．Attitudinal disjuncts の意味分類
７．Attitudinal disjuncts と他の文の要素
８．副詞の分類と変形 1) adjuncts, disjuncts, conjuncts
９．副詞の分類と変形 2) 否定文で用いられるか
10. 副詞の分類と変形 3) 焦点となりうるか
11. 副詞の分類と変形 4) 疑問文の焦点となりうるか
12. 日本語の副詞との比較対照 1) 文副詞との比較
13. 日本語の副詞との比較対照 2) 様態副詞との比較
14. 日本語の副詞との比較対照 3) 法副詞との比較
15. Greenbaum の分析の利点と問題点

定期試験
期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
希望があれば、レポートを返却する。授業中口頭でfeedback する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題論文を批判的に読み、質問やコメントができるようにする。(週3時間)
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業で読む文献は、教員が用意する。 Greenbaum, Sidney (1969) Studies in English Adverbial Usage, Longman: London.
オフィスアワー
授業中またはmanabaでしてください。
連絡先
maris@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。

英語学言語学特論IIIA				単位数	2単位
授業コード	M2330	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	齋藤　衛				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

現在追及されている極小主義統語論の背景と概要を学ぶ。1970年代以降の統語論の発展を極小主義統語論に至る過程として捉え直す。また、1990年代からの極小主義理論の展開により明らかにされた新たな研究課題についても理解を深める。前半では、句構造、名詞句の分布、そして移動に関する諸原理に説明を与えるラベル付け理論を中心に議論を進め、後半では、一致や移動の局所性に説明を与えるフェイズ理論をとりあげる。随時、現在の研究課題に対して、日本語研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	極小主義統語論研究の課題とその背景を的確に理解しており、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	極小主義統語論の発展に寄与する独創的な研究が遂行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業での議論への貢献（30%）	1／2
2	レポート（70%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 生成文法：科学としての言語学
2. 言語の構造、X' 理論
3. 非対格仮説、VP内主語仮説
4. 名詞句の分布と格理論
5. 最終手段の原理からラベル付け理論へ
6. phi 素性一致を欠く言語におけるラベル付け
7. 日英語の類型的特徴の説明（I）：自由語順と多重主語
8. 日英語の類型的特徴の説明（II）：語彙的複合動詞と名詞修飾節
9. 弱主要部としての文法格、theta 規準再考
10. 移動と照応形束縛の局所性
11. フェイズ理論に基づく説明
12. 局所性に見られる言語間変異
13. 一致の有無に言及するフェイズの定義
14. 制御の移動分析
15. 適正束縛効果などに見られる言語間変異

定期試験
学期後半にレポートの課題を示す。
試験のフィードバックの方法
レポートにコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業時に紹介する参考文献の熟読。授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。（週３時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
プリントを配布する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学特論IIIB				単位数	2単位
授業コード	M2335	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	齋藤　衛				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

　ヨーロッパを中心に盛んに追及され、大きな成果をあげているカートグラフィー研究をとり上げる。Luigi Rizzi氏、Guglielmo Cinque氏などによる先行研究を概観した上で、日本語を中心とした比較統語論研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。モーダル、補文標識、Wh句の解釈、談話小辞などに焦点をあてて、議論を進める。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	カートグラフィー研究の課題とその背景を的確に理解しており、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	カートグラフィー研究の発展に寄与する独創的な研究が遂行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業での議論への貢献（30%）	1／2
2	レポート（70%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 文周縁部のカートグラフィー
2. 副詞句のカートグラフィー
3. 補文標識の階層性（I）
4. 補文標識の階層性（II）
5. 主題の位置
6. モーダルの階層性
7. 談話小辞の階層性
8. 選択制限と意味解釈から描くカートグラフィー
9. 補文の意味解釈における「発話」
10. 補文の意味解釈における「事象」
11. 英語における補文の意味解釈に関する諸問題
12. Wh疑問文に見られる言語間変異（I）
13. Wh疑問文に見られる言語間変異（I）
14. 焦点としてのWh句
15. 総復習

定期試験
学期後半にレポートの課題を示す。
試験のフィードバックの方法
レポートにコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で示された参考文献の熟読。授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。(週３時間)
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考文献＞ 遠藤善雄、前田雅子著『カートグラフィー』開拓社, 2020. ISBN978-4-7589-1405-5.
オフィスアワー
受講者と相談して決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学演習A				単位数	2単位
授業コード	M2340	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	坂口　真理				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

本授業では、英語の副詞類の統語的、意味論的分析に必要な理論を学ぶ。Jackendoff (1972) と McCawley (1988, 1998) の生成文法の分析を土台に主語指向性について書かれた Wyner (1998) 等を読む。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．英語の副詞に関する文献を読み、内容を理解し、意見を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．修士論文作成のもととなる資料を収集し、内容を分析し、 英文でまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中の発表 (30%)	1／2
2	レポート課題 (70%)	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．①を読み進める。
２．投射規則
３．主語指向性、受身、サイクル
４．副詞と助動詞倒置変形
５．文中に複数ある副詞の語順
６．前置詞と挿入句への一般化
７．まとめ
８．②の精読
９．助動詞の位置と副詞の位置との関係
10. 副詞の統語上の問題点　１）副詞の位置と意味
11. 副詞の統語上の問題点　２）副詞と数量詞の意味解釈
12. ①と②の共通点と相違点
13. ③の精読
14. 文副詞の意味と分布についての発表
15. 受講者の発表とまとめ

定期試験

研究テーマに関するレポート課題を複数回出題する。

試験のフィードバックの方法

feedback はmanabaを通じて連絡する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

授業で読む文献は教員が準備する。
① Jackendoff (1972) Semantic Interpretation in Generative Grammar(第 3 章)
② McCawley (1988) The Syntactic Phenomena of English Vol.12 (19. Adverbs)
③ Bellert (1977) “On Semantic and Distributional Properties of Sentential Adverbs”
④ Wyner (1998) “Subject-oriented Adverbs are Thematically Dependent”

オフィスアワー

授業の前後・manabaやメールなどで質問を受け付ける。

連絡先

maris@m.ndsu.ac.jp

留意事項

履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。
英語の言語学の文献を批判的に読めるように、十分予習をすること。

英語学言語学演習B				単位数	2単位
授業コード	M2345	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	坂口　真理				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

1 期に引き続き、英語の副詞類の統語的・意味論的分析に必要な理論を学ぶ。1 期で学んだ統語理論や意味理論をもとに、受講者が収集した資料の分析を進めていく。自分がまとめた考察を発表する機会も設ける。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．英語の副詞に関する文献を読み、内容を理解し、意見を述べることができる。	
2	２．修士論文作成のもととなる資料を収集し、内容を分析し英文でまとめることができる。	
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表（30%）	1／2
2	レポート課題（70%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．1 期の課題レポートについて受講者が口頭で発表
２．④の精読と並行して、英語で論文を書いていく。
３．reluctantly のような副詞（TDAs）に関する先行研究
４．統語構造の条件
５．主題役割の条件
６．表層の主語の主題役割の性質
７．副詞に関する Event Semantics による分析
８．主題役割に依存する副詞についての理論
９．①～④の精読から得られたことを議論し、論文の完成にむけて、
　　論点を整理していく。
10. 副詞の表層の位置
11. 副詞の意味解釈
12. 文副詞の分布
13. 文副詞と主語指向副詞の相違
14. 今期の論文についての受講者による中間発表
15. まとめ

定期試験

各自の研究テーマに基づいて、期末レポートを課す。

試験のフィードバックの方法

メールやmanabaを通じて、レポートのfeedbackの機会を設ける。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業で課題となっている文献を批判的に読み、自分の考えや疑問を表すことができるようにする。（週3時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

授業で読む文献は教員が準備する。

① Jackendoff (1972) Semantic Interpretation in Generative Grammar(第 3 章)
② McCawley (1988) The Syntactic Phenomena of English Vol.12 (19. Adverbs)
③ Bellert (1977) “On Semantic and Distributional Properties of Sentential Adverbs”
④ Wyner (1998) “Subject-oriented Adverbs are Thematically Dependent”

オフィスアワー

授業の前後、または、予約してください。

連絡先

maris@m.ndsu.ac.jp

留意事項

履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。
英語の言語学の文献を批判的に読めるように、十分予習をすること。

英語学言語学演習A				単位数	2単位
授業コード	M2350	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	齋藤　衛				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

　統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にリヴューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、句構造、文法格の認可、多様な複合動詞の形成、省略現象を予定している。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	先端的な研究論文を正確に理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	優れた論文をさらに発展させるために、建設的なコメントをすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業での発表（50%）	1／2
2	論文（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

＜統語構造と文法格＞
1. 文法格の理論
2. 複合動詞文の構造
3. 複合動詞文における文法格
4. 例外的格付与文
5. 格と一致の関係
＜統語構造と語形成＞
6. 統語的複合動詞と語彙的複合動詞
7. 語彙的複合動詞の統語的派生
＜省略現象＞
8. 省略現象の概観
9. PF削除分析とLFコピー分析
10. N'省略
11. VP省略とスルーシング
12. 項省略
13. 省略現象における言語間変異
14. VP省略とスルーシング再考
15. 総復習

定期試験
受講生と共に論文のテーマを決定する。
試験のフィードバックの方法
論文にコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業に紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを選択して、研究を進める。（週６時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業時に指定する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学演習B					単位数	2単位
授業コード	M2355	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	齋藤　衛					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	英語学言語学					

本授業の概要

統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にリヴューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、制御、空演算子、適正束縛現象、Wh句の不定名詞句分析、Wh句の演算子分析を予定している。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	先端的な研究論文を正確に理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	優れた論文をさらに発展させるために、建設的なコメントをすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での研究発表（50%）	1／2
2	論文（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

＜制御と空演算子＞
1. PRO分析の問題点
2. 制御の移動分析
3. 空演算子の移動分析
4. 制御の局所性
5. コピー形成分析
＜適正束縛現象＞
6. 演算子移動とNP移動の非対称性
7. 連鎖の解釈メカニズム
8. 言語間変異と言語内変異
9. コピー形成分析の可能性
＜Wh句の解釈＞
10. Wh句の移動分析
11. 変項としての不定名詞句
12. Wh句の不定名詞句分析
13. 演算子としてのWh句
14. 焦点としてのWh句
15. 総復習

定期試験
受講者と相談の上、論文のテーマを決定する。
試験のフィードバックの方法
論文にコメントを付して、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の復習に加え、自らの研究を積極的に進める。（週６時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業時に指定する。
オフィスアワー
受講者と相談の上、決定する。
連絡先
saito@m.ndsu.ac.jp
留意事項

英語学言語学演習A					単位数	2単位
授業コード	M2360	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	木津　弥佳					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	英語学言語学					

本授業の概要

本授業では、受講者が選んだ修士論文の課題に取り組むために必要な研究方法や分析の仕方、発表・論文のまとめ方を学ぶ。扱うテーマとしては、第二言語としての英語または日本語の習得について、第二言語習得理論を基にした研究課題を選び、関連する先行研究を洗い出し、文献を批判的・客観的に読み、深く理解するような訓練を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	第二言語習得研究の課題設定を適切に行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	必要な方法論を理解し、研究調査を実践することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加　20%	1／2／3
2	発表　30%	1／2／3
3	研究論文　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．修士論文について・研究課題（仮）の設定
２．先行研究：文献の収集
３．先行研究：クリティカルに読む
４．先行研究：今後の課題
５．研究課題の設定
６．研究の方法
７．調査・分析の方法
８．研究調査の実施に向けて：計画を立てる
９．研究調査の実施に向けて：パイロットスタディ
10. 調査結果の収集
11. 調査結果のまとめ
12. 先行研究と本研究の分析
13. 先行研究と本研究の残された問題
14. 論文の構成
15. 論文の作成に向けて

定期試験
研究論文の提出
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキスト・論文を理解してまとめる（３時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に担当教員と面談すること。

英語学言語学演習B				単位数	2単位
授業コード	M2365	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				

本授業の概要

本授業では、修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	研究調査結果をまとめ、適切な方法で分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	分析結果を客観的に判断し、建設的に批判することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表・論文作成ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加　20%	1／2／3
2	発表　30%	1／2／3
3	研究論文　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．これまでのまとめと論文内容の検討
２．研究課題・方法・調査のまとめ
３．英語論文の書き方：構文と文体
４．研究結果の分析：量的分析
５．研究結果の分析：質的分析
６．研究課題の確認
７．英語論文の書き方：引用と主張点
８．分析結果に関する議論：量的観点から
９．分析結果に関する議論：質的観点から
10. 英語論文の書き方：論理的議論
11. 序論
12. 結論
13. 論文全体の見直し
14. 英文要旨の書き方
15. まとめ

定期試験
研究論文の提出
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として、１期の英語学言語学演習（木津担当）を履修しておくこと。

国際コミュニケーション特論IB				単位数	2単位
授業コード	M2415	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小野　真由美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

この授業は、国境を越える人の移動の加速化によって生じる、国民国家、民族、文化の関係の再編成について、検討する。具体的には、文化人類学および社会学における国際移動に関する議論について、シチズンシップ、トランスナショナリズム、モビリティの理論的展開をふまえ、東アジアにおける国際移動、および、移住と観光に関する研究動向について把握する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	国際移動に関する文化人類学および社会学における議論を把握し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	シチズンシップ、トランスナショナリズム、モビリティの理論的展開をふまえ、批判的に論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	東アジアにおける国際移動、特に、移住と観光に関する研究動向について把握し、自身の研究に応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での発表（50%）	1／2／3
2	タームペーパー（50%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．イントロダクション
２．移住・観光の人類学
３．Wind over Water：Introduction
４．Wind over Water：Chapter 6
５．Wind over Water：Chapter 8
６．Wind over Water：Chapter 10
７．Wind over Water：Chapter 11
８．Wind over Water：Chapter 15
９．Contested Spacialities：Introduction
10．Contested Spacialities：Chapter 2
11．Contested Spacialities：Chapter 3
12．Contested Spacialities：Chapter 6
13．Contested Spacialities：Chapter 10
14．Contested Spacialities：Chapter 12
15．まとめ

定期試験
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題となる論文を精読し、理解しておくこと（3時間）。また、発表担当の回には、レジュメを作成すること(5時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
David W. Haines, Keiko Yamanaka, and Shinji Yamashita (eds.). (2012) Wind Over Water: Migration in an East Asian Context. Barghahn Books. Janoschka, Michael and Heiko Haas (eds.) Contested Spatialities, Lifestyle Migration and Residential Tourism. Routledge.
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受ける。
連絡先
mayumiono@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし。

国際コミュニケーション特論IIA				単位数	2単位
授業コード	M2420	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	桑山　敬己				
時間割備考	5/20, 6/17, 7/15, 9/11, 9/12				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

本授業では海外（特に英語圏）における日本研究について考える。今年度は前期・後期ともに The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture を教科書として使う。同書は序章を含めて全20章から構成されており、現代日本文化の諸側面（たとえば第3章は言語、第4章は家族、第5章は学校）について、特定の専門分野（たとえば社会学）にこだわることなく、各々の側面に関する専門家が執筆している。内容的にも言語的にもレベルは高いので無理をせず、各章につき3コマ分の時間（90分×3）を充てる。つまり前期・後期ともに5章を選択して読む。1コマ目は英語の理解度の確認、2コマ目は特定の章を担当する学生による発表、そして3コマ目は講師による解説とクラス全体の討議を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	海外（特に英語圏）で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	講師の専門は文化人類学なので、受講生は主に文化人類学という特定の専門分野から日本を見ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	発表と討議を通じて大学院生に相応しい研究を自ら行うことを学ぶことができる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポート（70%）	1／2
2	授業中の発表と議論への貢献度（30%）	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回　Japanese Culture: An Overview 1
第2回　Japanese Culture: An Overview 2
第3回　Japanese Culture: An Overview 3
第4回　Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 1
第5回　Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 2
第6回　Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 3
第7回　Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 1
第8回　Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 2
第9回　Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 3
第10回　Chapter 3 Language 1
第11回　Chapter 3 Language 2
第12回　Chapter 3 Language 3
第13回　Chapter 4 Family Culture 1
第14回　Chapter 4 Family Culture 2
第15回　Chapter 4 Family Culture 3

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各章は小さな文字で約15頁から20頁で構成されている。発表の有無にかかわらず、すべての受講生が全章に目を通すこと。準備時間は読解力によるが、最低数時間はみておいてほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必携書　Yoshio Sugimoto, ed., The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University Press, 2009).
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受けつける。
連絡先
tkuwayama@kwansei.ac.jp
留意事項
上記の教科書（必携）は各自で入手すること。

国際コミュニケーション特論IIB				単位数	2単位
授業コード	M2425	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	桑山　敬己				
時間割備考	9/13, 9/15, 10/17, 11/18, 12/9				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

本授業では海外（特に英語圏）における日本研究について考える。今年度は前期・後期ともに The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture を教科書として使う。同書は序章を含めて全20章から構成されており、現代日本文化の諸側面（たとえば第3章は言語、第4章は家族、第5章は学校）について、特定の専門分野（たとえば社会学）にこだわることなく、各々の側面に関する専門家が執筆している。内容的にも言語的にもレベルは高いので無理をせず、各章につき3コマ分の時間（90分×3）を充てる。つまり前期・後期ともに5章を選択して読む。1コマ目は英語の理解度の確認、2コマ目は特定の章を担当する学生による発表、そして3コマ目は講師による解説とクラス全体の討議を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	海外（特に英語圏）で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	講師の専門は文化人類学なので、受講生は主に文化人類学という特定の専門分野から日本を見ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	発表と討議を通じて大学院生に相応しい研究を自ら行うことを学ぶことができる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポート（70%）	1／2
2	授業中の発表と議論への貢献度（30%）	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回　Chapter 5 School Culture 1
第2回　Chapter 5 School Culture 2
第3回　Chapter 5 School Culture 3
第4回　Chapter 6 Work Culture 1
第5回　Chapter 6 Work Culture 2
第6回　Chapter 6 Work Culture 3
第7回　Chapter 8 Religious Culture 1
第8回　Chapter 8 Religious Culture 2
第9回　Chapter 8 Religious Culture 3
第10回　Chapter 11 Literary Culture 1
第11回　Chapter 11 Literary Culture 2
第12回　Chapter 11 Literary Culture 3
第13回　Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 1
第14回　Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 2
第15回　Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 3

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各章は小さな文字で約15頁から20頁で構成されている。発表の有無にかかわらず、すべての受講生が全章に目を通すこと。準備時間は読解力によるが、最低数時間はみておいてほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必携書　Yoshio Sugimoto, ed., The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University Press, 2009).
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受けつける。
連絡先
tkuwayama@kwansei.ac.jp
留意事項
上記の教科書（必携）は各自で入手すること。

国際コミュニケーション特論IIIA				単位数	2単位
授業コード	M2430	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

This course will introduce the concept of global citizenship and global citizenship education (GCED). Students will learn what it means to be "global-minded" as well as what global and local issues we face (e.g. climate change, poverty, immigration, gender equity, population decline, etc). Students will watch videos, read articles and share opinions wiht the objective of developing concern and compassion. This year's theme will be education. In particular, we will investigate GCED for: Intercultural Understanding, Peace & Diplomacy, Equity & Social Justice, Cultural Appreciation (food, music, film, art, etc).

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will develop konwledge of global issues and solutions.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will learn about global citizenship and develop global competencies such as knowledge, critical and creative thinking, compassion and reflection.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	Students will learn the theories behind the practices of global citizenship.	知識・技能
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Weekly discussion and written reflections 60%	1／2／3
2	Oral GCED presentation 20%	3
3	Independent written investigation 20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	English

授業予定一覧

Week 1: Gaining Self Awareness
Week 2: Gaining Self Awareness
Week 3: What is a global citizen? What can we do? What needs to be done?
Week 4: UNESCO Story Circles
Week 5: UNESCO Story Circles
Week 6: GCED Part 1: Cultural Appreciation
Week 7: GCED Part 1: Cultural Appreciation
Week 8: Independent GCED Research Prep
Week 9: Independent GCED Research Prep
Week 10: GCED Part 2: Developing Compassion
Week 11: GCED Part 2: Developing Compassion
Week 12: GCED Part 3: Peace Education
Week 13: GCED Part 3: Peace Education
Week 14: GCED Presentations
Week 15: GCED Presentations/Independent Research Papers due

定期試験
Students will be assessed based on their weekly participation in discussions, written reflections and their independent research paper and presentation on GCED.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be ongoing through out the semester and in Week 16.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students will be required to put in a minimum of 3 hours of homework per week in preparation for classes and conducting independent research.
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Teacher will provide materials. No textbook needed.
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first meeting.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class.

国際コミュニケーション特論IIIB				単位数	2単位
授業コード	M2435	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

Students will get an introduction to the theories and current best practices in Foreign Lanuage Education (FLE) including: Inquiry-based Learning, fostering global competencies in students, use of digital tools (e.g. COIL) etc. They will also learn how to apply these theories and practices to their own learning and teaching situations.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students are familiar with the recommended Foreign Language Education (FLE) methodologies in practice today.	知識・技能／思考・判断・表現力
2	Students understand the theories behind FLE methodologies adn how to apply them to a classroom setting.	知識・技能／思考・判断・表現力
3	Students are able to select FLE methods for their own current or future learning situations.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Weekly written reflections and discussions 60%	1／2
2	Written investigation of FLE methodologies 20%	1／2／3
3	FLE Methodology Presentation 20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	English

授業予定一覧

1. Introduction: FLE Methodologies II
2. Teaching English in English
3. Methodologies: Inquiry-based, student-Centered Learning
4. Case Study: World Heritage
5. Case Study: World Heritage
6. What: Teaching Global Skills
7. How: Global Ed
8. Case Study: Theory of Knowledge
9. Case Study: Theory of Knowledge
10. Presenting FLE Independent Research
11. What: Digital Skills
12. How: COIL
13. Case Study: Story Circles
14. Case Study: Story Circles
15. Summary and Final Assessment

定期試験
Overall assessment will be determined by weekly written reflections and discussions, in addition to the writingand presentation of an indpendent investigation.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be ongoing and provided at the final lesson (week 16).
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Students will spend a minimum of 3 hours a week on assigned readings and indpendent research related to the class.
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Readings will be provided by the professor. No textbook required.
オフィスアワー
Office hours will be announced in class.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class.

国際コミュニケーション演習A				単位数	2単位
授業コード	M2450	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	松本　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、社会学の手法を用いて研究を遂行するための基礎を修得することを目的とする。社会学の中で用いられる調査方法を把握し、具体的な研究計画を立案し、実施に向けた作業を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での発表（20%）	1
2	タームペーパー（80%）	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．イントロダクション
２．研究調査方法について
３．参与観察
４．フィールドノートの技法
５．写真観察法
６．インタビューの技法
７．メディアの活用
８．研究・調査をめぐる倫理的問題
９．研究計画の立案
10. 調査地の選定
11. 調査対象の選別とアプローチ
12. 依頼状・コンセントフォームの作成
13. 予備調査の立案・実施
14. 研究計画の完成
15. まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指定された論文・図書のまとめ（３時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜配布
オフィスアワー
By appointment
連絡先
留意事項
9月にシラバスがアップデートされるので確認すること

国際コミュニケーション演習B				単位数	2単位
授業コード	M2455	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	松本　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				

本授業の概要

この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、社会学の枠組みの中で課題を考察する。調査で収集したデータを分析し、考察・ディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での発表（20%）	1
2	タームペーパー（80%）	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．イントロダクション
２．データ結果のまとめ１
３．データ結果のまとめ２
４．データ結果のまとめ３
５．データ分析の方法１
６．データ分析の方法２
７．データ分析の方法３
８．データ分析の方法４
９．考察・ディスカッション 1：先行研究の検討
10. 考察・ディスカッション 2：方法論の妥当性
11. 考察・ディスカッション 3：記述と分析の事例の再検討
12. 研究論文の書き方１
13. 研究論文の書き方 2
14. プレゼンテーション
15. まとめと振り返り

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指定された論文・図書のまとめ（３時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜配布
オフィスアワー
By appointment
連絡先
留意事項
9月に内容がアップデートされるので、必ず確認すること

翻訳学特論A				単位数	2単位
授業コード	M2460	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				

本授業の概要

本講では、英語と日本語の言語構造的・文体的違いと、それぞれの文化・社会的背景を認識し、英語から日本語、または日本語から英語へ翻訳する際に、何を考慮する必要があるのかを考察する。また、翻訳スキルや翻訳ストラテジーのみならず、それらがどのような翻訳理論を基盤としているのかを学び、自身の翻訳を客観的に評価し、翻訳プロセスを論理的に説明できる力を養う。具体的なトピックとしては、句や文レベルとテキスト間の等価性や指標性、語用論的・文化的意味などについて考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英日・日英翻訳の高度な能力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	英語と日本語の言語的・文化社会的違いを認識して、翻訳に反映させることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	翻訳の際の課題を系統立てて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Presentation 20%	1／2／3
2	Translation 30%	1／2／3
3	Commentary 50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 Orientation
2 Introduction to translation studies
3 Propositional meaning
4 Presupposed meaning, expressive meaning
5 Indexical meaning
6 Symbolic, allusive, associative and collocative meaning
7 Textual meaning, figurative meaning
8 Speech acts, ambiguity and vagueness
9 How to write a commentary
10 Narrative discourse
11 Procedural, expository, descriptive, hortatory, repartee discourse, etc.
12 Seven types of translation technique
13 Omission in translation, Information addition/deletion and offsetting, etc.
14 Summary
15 Peer review

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストを読み、発表用レジュメを作成する。（3時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Hasegawa, Yoko (2012) The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge. 鳥飼玖美子（編著）(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房. Baker, Mona (1992) In Other Words: A Coursebook on Translation. Routledge. Munday, Jeremy (2008) Introducing Translation Studies: Theories and Applications [2nd edition]. Routledge.
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録を希望する人は担当者まで申し出てください。

翻訳学特論B				単位数	2単位
授業コード	M2462	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				

本授業の概要

１期に引き続き、英語と日本語の言語構造的・文体的違いと、それぞれの文化・社会的背景を認識し、英語から日本語、または日本語から英語へ翻訳する際に、何を考慮する必要があるのかを考察する。また、翻訳スキルや翻訳ストラテジーのみならず、それらがどのような翻訳理論を基盤としているのかを学び、自身の翻訳を客観的に評価し、翻訳プロセスを論理的に説明できる力を養う。特に、これまで提唱されてきた翻訳理論を概観し、より理論的基盤を固めて自身の翻訳作品を論じることができるようにする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英日・日英翻訳のさらに高度な能力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	英語と日本語の言語的・文化社会的違いを認識して、より正確に翻訳に反映させることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	翻訳の際の課題を翻訳理論に基づいて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Presentation 20%	1／2／3
2	Translation 30%	1／2／3
3	Commentary 50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 Introduction
2 Pre-modern translation theories 1
3 Pre-modern translation theories 2
4 Mid-twentieth century translation theories 1
5 Mid-twentieth century translation theories 2
6 Skopos theory 1
7 Skopos theory 2
8 Negative analytic 1
9 Negative analytic 2
10 Recent approaches 1
11 Recent approaches 2
12 The translation situation 1
13 The translation situation 2
14 Reading the source text 1
15 Translation evaluation

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストを読み、発表用レジュメを作成する。（3時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
Hasegawa, Yoko (2012) The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge. 鳥飼玖美子（編著）(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房. Baker, Mona (1992) In Other Words: A Coursebook on Translation. Routledge. Munday, Jeremy (2008) Introducing Translation Studies: Theories and Applications [2nd edition]. Routledge.
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録を希望する人は担当者まで申し出てください。

翻訳教育特論A				単位数	2単位
授業コード	M2465	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	行木　瑛子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				

本授業の概要

本授業では、年少者向け教育・初等教育・中等教育・高等教育・翻訳者養成コースなど、様々な教育分野での翻訳の活用について考察する。授業では、国内外の事例を扱った論文（英語・日本語）を読み込み、ディスカッションを通して、翻訳教育に関する知見を深める。また、学んだ知見をもとに、自らが現在または将来、家庭・地域・教育等でどう翻訳教育を活用していけるかを考え、発表し、レポートにまとめる。

本授業は、外国語教育に興味のある者のみならず、将来翻訳通訳者養成に携わりたい者、子どものバイリンガル教育に興味のある者や、在住外国人のサポートを考えている者などにとっても、どう自分の環境に翻訳を応用していくかを考えるきっかけとなるものである。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	様々な場面でどう翻訳教育が使用されているかについて理解できる。	知識・技能
2	現在・将来の自分の生活に翻訳教育をどう応用していけるかを具体的に説明できる。	思考・判断・表現力
3	英語・日本語の文献を読み込み、その内容を正確に理解した上で、内容について自分の意見を述べることができる。	思考・判断・表現力
4	複数の文献を読み込んだうえで、それに基づき発表・レポートの作成ができる。	主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加（20%）	1／3
2	課題（20%）	1／3
3	発表（20%）	2／4
4	レポート（40%）	2／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 自己紹介・クラスの流れ・翻訳教育に関するブレインストーミング
2. 翻訳教育の理論的背景（バイリンガリズム・マルチリンガリズム）
3. 幼児教育での翻訳の活用
4. 初等教育での翻訳の活用
5 複言語教育と翻訳の活用
6. 中等教育での翻訳の活用①：文法訳読法とその批判
7. 中等教育での翻訳の活用②：英語教育での実践例
8. 高等教育での翻訳の活用①：日本語教育での実践例
9. 高等教育での翻訳の利用②：文芸翻訳とクリエイティブライティング
10. 高等教育での翻訳の活用③：視聴覚翻訳
11. 翻訳の専門教育：学部向けコース
12. 翻訳の専門教育：院生向けコース
13. 手話と翻訳教育
14. 翻訳担当教師向けのトレーニング
15. 発表とまとめ

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
レポートについては教員のコメントをメール等で送付する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習：課題の文献を読み込んでくる・発表の準備を行う（1～2時間） 事後学習：授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
<参考書> Laviosa, S., & Davies, M. G. (Eds.). (2020). The Routledge handbook of translation and education. Routledge. Venuti, Lawrence, ed. (2016). Teaching translation: Programs, courses, pedagogies. Routledge. 野原 佳代子 (2014)『ディスカッションから学ぶ翻訳学』三省堂.
オフィスアワー
Zoomでの授業後に質問を受け付ける。また、メールでも随時質問を受け付ける。
連絡先
g-eiko@okinawa-u.ac.jp
留意事項
シラバスは、履修学生の興味分野によって変更する可能性がある。

翻訳実践演習IA				単位数	2単位
授業コード	M2470	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小笠原　ヒロ子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

このコースの目的は、学生が英語のテキストを適切な日本語に翻訳ができる高度な翻訳スキルを取得、開拓していける指導することである。このコースでは、フィクション、ノンフィクションを織り交ぜながら、様々なテキストを取り扱っていく。このコースでは英語のテキストを、異なる文法、慣用表現、発話法などにとらわれずに、自然な日本語へと翻訳する訓練をする

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語のテキストの形式、内容、意味を評価し、それを適切な日本語に翻訳する方法を考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	翻訳に必要な資料、辞書等を有効に活用して、翻訳することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	原稿の英語のテキストのスタイルに合致した日本語を選び、またオリジナルの英語の内容、ニュアンスを正確に理解した上で、作者が意図した通りの日本語に翻訳ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自分が翻訳した際に心掛けたことを文書でも、口頭でも説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	注釈付きニュース記事の翻訳　　30%	1／2／3／4
2	注釈付き解説エッセイの翻訳　　30%	1／2／3／4
3	注釈付きショートストーリーの翻訳　40%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

講師は、学術論文、医学論文、体験書、報告書、マニュアル、パンフレット、カタログ、法律文書等の翻訳経験がある。その経験を通して、読者にわかりやすい翻訳はどのように心掛けたらよいのかを学生に伝える

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション：　基本的な英語の文章を日本語に翻訳する
２．英語による対話を日本語に翻訳する：　英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル
３．英語による対話を日本語に翻訳する：　英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル
４．日本語と英語の分法の違い考察　英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル
５．注釈付き翻訳の評価　１．提出とディスカッション
６．日本語と英語の分法の違い考察　英語の解説文、内容、様式、スタイル
７．翻訳テクニックの習得　文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル
８．翻訳テクニックの習得　文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル
９．翻訳テクニックの習得　長文、英語の解説文、内容、様式、スタイル
10. 注釈付き翻訳の評価　２．提出とディスカッション
11. 翻訳テクニックの習得　長文、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
12. 翻訳テクニックの習得　対話、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
13. 翻訳テクニックの習得　詳細説明、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
14. 翻訳テクニックの習得　ジャンル、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
15. 注釈付き翻訳の評価　３．提出とディスカッション

定期試験
学生個々に翻訳のフィードバックを行う
試験のフィードバックの方法
学生の課題提出したものに対して、定期的にコメントを付けてフィードバックを行う。 口頭の説明が必要な場合は、応じる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題を毎週だすので、学生はテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中は翻訳した内容についてのディスカッションを行う。1.5-2.5時間/週
必携書（教科書販売）
なし。授業に合わせた資料を講師から配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
m8022@m.ndsu.ac.jp
留意事項
この授業は学生は積極的に参加することを求める。課題は事前に完了させ、授業中は、ディスカッションにより、活発な意見交換を行う。

翻訳実践演習IB				単位数	2単位
授業コード	M2472	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小笠原　ヒロ子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				

本授業の概要

このコースの目的は、学生が英語のテキストを適切な日本語に翻訳ができる高度な翻訳スキルを取得、開拓していける指導することである。このコースでは、フィクション、ノンフィクションを織り交ぜながら、様々なテキストを取り扱っていく。このコースでは英語のテキストを、異なる文法、慣用表現、発話法などにとらわれずに、自然な日本語へと翻訳する訓練をする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語のテキストの形式、内容、意味を評価し、それを適切な日本語に翻訳する方法を考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	翻訳に必要な資料、辞書等を有効に活用して、翻訳することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	原稿の英語のテキストのスタイルに合致した日本語を選び、またオリジナルの英語の内容、ニュアンスを正確に理解した上で、作者が意図した通りの日本語に翻訳ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自分が翻訳した際に心掛けたことを文書でも、口頭でも説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	注釈付きニュース記事の翻訳　　30%	1／2／3／4
2	注釈付き解説エッセイの翻訳　　30%	1／2／3／4
3	注釈付きショートストーリーの翻訳　40%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

講師は、学術論文、医学論文、体験書、報告書、マニュアル、パンフレット、カタログ、法律文書等の翻訳経験がある。その経験を通して、読者にわかりやすい翻訳はどのように心掛けたらよいのかを学生に伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション：　基本的な英語の文章を日本語に翻訳する
２．英語による対話を日本語に翻訳する：　英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル
３．英語による対話を日本語に翻訳する：　英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル
４．日本語と英語の分法の違い考察　英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル
５．注釈付き翻訳の評価　１．提出とディスカッション
６．日本語と英語の分法の違い考察　英語の解説文、内容、様式、スタイル
７．翻訳テクニックの習得　文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル
８．翻訳テクニックの習得　文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル
９．翻訳テクニックの習得　長文、英語の解説文、内容、様式、スタイル
10. 注釈付き翻訳の評価　２．提出とディスカッション
11. 翻訳テクニックの習得　長文、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
12. 翻訳テクニックの習得　対話、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
13. 翻訳テクニックの習得　詳細説明、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
14. 翻訳テクニックの習得　ジャンル、文学の翻訳、内容、様式、スタイル
15. 注釈付き翻訳の評価　３．提出とディスカッション

定期試験
学生個々に翻訳のフィードバックを行う。
試験のフィードバックの方法
学生の課題提出したものに対して、定期的にコメントを付けてフィードバックを行う。 口頭の説明が必要な場合は、応じる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
課題を毎週だすので、学生はテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中は翻訳した内容についてのディスカッションを行う。1.5-2.5時間/週
必携書（教科書販売）
なし。授業に合わせた資料を講師から配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
m8022@m.ndsu.ac.jp
留意事項
この授業は学生は積極的に参加することを求める。課題は事前に完了させ、授業中は、ディスカッションにより、活発な意見交換を行う。

翻訳実践演習IIA				単位数	2単位
授業コード	M2475	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	Jason Williams				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	Practical Translation（実践翻訳）				

本授業の概要

The objective of this course is to help students acquire and develop advanced translation skills and techniques for the competent translation of authentic Japanese source texts into English. This course will focus on a variety narrative literary texts in both fiction and non-fiction. The course will also focus on differences in Japanese and English discourse, rhetoric, grammar and semantics. Students will produce annotated English translations of Japanese source texts.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to evaluate authentic Japanese texts for form, content and meaning, and select appropriate strategies and techniques for translating them into English.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to evaluate and select appropriate resource materials and apply them to their translation process.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	Students will be able to demonstrate the application of translation strategies and techniques by producing translations that are stylistically appropriate, show sensitivity to the language, style and content of the source text, and display a good command of a variety of	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	Students will be able to explain and compare their translation approaches and choices both in writing and orally.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Assessed Annotated Translation 1: News Article - 30%	1／2／3／4
2	Assessed Annotated Translation 2: Expository Essay - 30%	1／2／3／4
3	Assessed Annotated Translation 3: Short Story - 40%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

The instructor has published a number of Japanese to English translations, including literary, medical, industrial, and academic source texts as well as personal and professional correspondence and communication.

日本語以外の言語による授業	英語

授業予定一覧

1. Course Orientation・Basics of Japanese to English Translation
2. Discourse and Rhetoric in Japanese to English Translation・English Journalism: Content, Form, Style
3. Discourse and Rhetoric in Japanese to English Translation・English Journalism: Content, Form, Style
4. Japanese and English Grammar・English Journalism: Content, Form, Style
5. Assessed Annotated Translation 1・Submission and Discussion
6. Japanese and English Grammar・English Expository Writing: Content, Form, Style
7. Translations Strategies and Techniques: Sentences・English Expository Writing: Content, Form, Style
8. Translations Strategies and Techniques: Sentences・English Expository Writing: Content, Form, Style
9. Translations Strategies and Techniques: Extended Passages・English Expository Writing: Content, Form, Style
10. Assessed Annotated Translation 2・Submission and Discussion
11. Translations Strategies and Techniques: Extended Passages・Literary Translation: Content, Form, Style
12. Translations Strategies and Techniques: Dialogues・Literary Translation: Content, Form, Style
13. Translations Strategies and Techniques: Explication・Literary Translation: Content, Form, Style
14. Translations Strategies and Techniques: Genre・Literary Translation: Content, Form, Style
15. Assessed Annotated Translation 3・Submission and Discussion

定期試験
16. Individual Feedback Sessions
試験のフィードバックの方法
Written and oral feedback on practice assignments will be given on a regular basis. Assessed assignments will be returned with written feedback, with oral feedback provided upon request.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Reading, preparation and practice assignments will be provided on a weekly basis. Students are expected to have them completed before each class and to be prepared for discussion of them. These assignments will total approximately 1.5 ~ 2.5 hours per week.
必携書（教科書販売）
There is no required textbook for this course. Materials for all coursework, including source texts and reference materials, will be provided by the instructor.
必携書・参考書（教科書販売以外）
An extensive list of reference materials, dictionaries and grammar books that students may wish to purchase for personal use will be provided on or before the first day of class .
オフィスアワー
Mondays 1:00 ~ 2:30 ノートルダムホール東棟 264ND Students may also speak with the instructor before or after any class session as well as ask questions by e-mail at any time and schedule individual appointments.
連絡先
williams@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This course is the first of two graduate Japanese-to-English translation courses. Students are expected to attend and be prepared for every class . Students are also expected to complete all assignments, practice and assessed, on time, and actively participate in all class discussions and activities. Students are encouraged to respectfully share their ideas and opinions with the instructor and each other, accept input from others, and to ask questions at any times.

翻訳実践演習IIB				単位数	2単位
授業コード	M2477	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	Jason Williams				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	Practical Translation (実践翻訳)				

本授業の概要

The objective of this course is to help students acquire and develop advanced translation skills and techniques for the accurate translation of authentic Japanese source texts into English. This course will focus on the accurate translation of specialized texts in in various fields including: medical, industrial, technical, advertising, business, academia and formal. The course will also focus on differences in Japanese and English discourse, rhetoric, grammar and semantics. Students will produce annotated English translations of Japanese source texts.

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	Students will be able to evaluate authentic Japanese texts for form, content and meaning, and select appropriate strategies and techniques for translating them into English.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	Students will be able to evaluate and select appropriate resource materials and apply them to their translation process.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	Students will be able to demonstrate the application of translation strategies and techniques by producing translations that are stylistically appropriate, show sensitivity to the language, style and content of the source text, and display a good command of a variety of	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	Students will be able to explain and compare their translation approaches and choices both in writing and orally.	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	Assessed Annotated Translation 1: Specialized Text - 30%	1／2／3／4
2	Assessed Annotated Translation 2: Specialized Text - 30%	1／2／3／4
3	Assessed Annotated Translation 3: Specialized Text - 40%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

The instructor has published a number of Japanese to English translations, including literary, medical, industrial, and academic source texts as well as personal and professional correspondence and communication.

日本語以外の言語による授業	英語

授業予定一覧

1. Course Orientation・Introduction to Specialized Texts
2. Style and Register・Business & Formal English
3. Style and Register・Business & Formal English
4. Locating Background and Specialist Information・Medical English
5. Assessed Annotated Translation 1・Submission and Discussion
6. Locating Background and Specialist Information・Medical English
7. Terminological Accuracy and Consistency・Technical and Industrial English
8. Terminological Accuracy and Consistency・Technical and Industrial English
9. Linguistic and Format Accuracy・Academic English
10. Assessed Annotated Translation 2・Submission and Discussion
11. Linguistic and Format Accuracy・Academic English
12. Readability and Naturalness・Advertising and Publicity English
13. Readability and Naturalness・Advertising and Publicity English
14. Review: Accuracy in Form, Content, Style, Message and Meaning
15. Assessed Annotated Translation 3・Submission and Discussion

定期試験
16. Individual Feedback Sessions
試験のフィードバックの方法
Written and oral feedback on practice assignments will be given on a regular basis. Assessed assignments will be returned with written feedback, with oral feedback provided upon request.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
Reading, preparation and practice assignments will be provided on a weekly basis. Students are expected to have them completed before each class and to be prepared for discussion of them. These assignments will total approximately 1.5 ~ 2.5 hours per week.
必携書（教科書販売）
There is no required textbook for this course. Materials for all coursework, including source texts and reference materials, will be provided by the instructor.
必携書・参考書（教科書販売以外）
An extensive list of reference materials, dictionaries and grammar books that students may wish to purchase for personal use will be provided on or before the first day of class .
オフィスアワー
Mondays 1:00 ~ 2:30 ノートルダムホール東棟 264ND Students may also speak with the instructor before or after any class session as well as ask questions by e-mail at any time and schedule individual appointments.
連絡先
williams@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This course is the second of two graduate Japanese-to-English translation courses. Students are expected to attend and be prepared for every class . Students are also expected to complete all assignments, practice and assessed, on time, and actively participate in all class discussions and activities. Students are encouraged to respectfully share their ideas and opinions with the instructor and each other, accept input from others, and to ask questions at any times.

翻訳学演習A				単位数	2単位
授業コード	M2480	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				

本授業の概要

本演習では、翻訳とコメンタリーから構成される修士論文を執筆するために必要な知識と方法論を学ぶ。また、理論的・実践的研究に基づいた修士論文執筆にも対応できるような先行研究を洗い出し、関連する文献を批判的に読み、建設的な意見を述べるための訓練を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	翻訳学関連の修士論文の課題設定を適切に行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	必要な方法論を理解し、実践することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発言等による授業への貢献20%	1／2／3
2	発表 30%	1／2／3
3	論文50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１. Introduction
２. Research questions and ethics
３. Literature review 1
４. Literature review 2
５. Literature review 3
６. Literature review 4
７. Literature review 5
８. Literature review 6
９. Summarizing previous research 1
10. Summarizing previous research 2
11. Research methods 1
12. Research methods 2
13. Research quality: validity and reliability
14. Research quality: generalizability
15. Summary

定期試験
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
文献のまとめと発表の準備（３時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜紹介・配布
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

翻訳学演習B				単位数	2単位
授業コード	M2482	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	木津　弥佳				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				

本授業の概要

本演習では、翻訳学関連の修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	先行研究の内容を深く理解し、適切にまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	翻訳作品を客観的に評価し、建設的に批判することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表と質疑応答ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発言等による授業への貢献　20%	1／2／3
2	発表　30%	1／2／3
3	論文　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１. Summarizing backgrounds
２. Translation process research
３. Reviewing translation 1
４. Reviewing translation 2
５. Reviewing translation 3
６. Presentation 1
７. Reviewing translation 4
８. Reviewing translation 5
９. Reviewing translation 6
10. Analysis: linguistic viewpoints
11. Analysis: contextual viewpoints
12. Analysis: theoretical viewpoints
13. Analysis: editorial viewpoints
14. Presentation 2
15. Summary and feedback

定期試験
論文
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
論文のまとめまたは翻訳分析（3時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜配布・紹介
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

聖書学特論IB				単位数	2単位
授業コード	M2515	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	山根　道公				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

日本の近現代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から戦後の小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書的象徴表現などに注目して分析、読解を行い、作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	キリスト教的、聖書的主題をもつ日本近現代文学の作品を分析する方法を修得できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業内活動３０％	1
2	研究レポート７０％	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．導入
２．日本近現代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。
３．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その１
４．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その２
５．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その３
６．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その４
７．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その５
８．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その６
９．具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その７
10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その８
11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その１
12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その２
13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その３
14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その４
15. まとめ

定期試験
レポート提出（課題の内容は授業内で指示）
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に示した作品を読んでおくこと。（約2時間） 自分なりに問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。（約１時間） 自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど，復習をすること。（約１時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に指示する。
オフィスアワー
金曜日１２：３０−１３：００。メールで質問、相談等は随時受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

キリスト教思想特論IIA				単位数	2単位
授業コード	M2530	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	袴田　渉				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

英米文学は、キリスト教を由来とする表現に満ちており、この宗教に発した文化と思想とを背景にしている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となる聖書の知識とキリスト教文化について学ぶ。1 期では、旧約・新約聖書の内容をテクストと共に学び、イギリスとアメリカ双方の歴史と文化に多大な影響を及ぼしたキリスト教について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への参加態度（30%）	1
2	リアクションペーパー（20%）	1
3	期末レポート（50%）	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．イントロダクション　キリスト教と英米文学
２．キリスト教の聖書について
３．旧約聖書（1）　天地創造
４．旧約聖書（2）　二つの創造
５．旧約聖書（3）　アブラハムの物語
６．旧約聖書（4）　イスラエルの誕生
７．旧約聖書（5）　モーセと出エジプト
８．旧約聖書（6）　十戒
９．新約聖書（1）　旧約から新約へ
10. 新約聖書（2）　新約聖書の全体像
11. 新約聖書（3）　イエスの物語
12. 新約聖書（4）　主の祈り
13. 新約聖書（5）　教会の誕生
14. 新約聖書（6）　黙示録
15. まとめ

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
参考文献をもとに予習し、配布資料等を用いて授業内容を復習する。（4時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回の授業で、旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示 する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
hakamada@nanzan-u.ac.jp
留意事項
本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

キリスト教思想特論IIB				単位数	2単位
授業コード	M2535	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	袴田　渉				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

英米文学は、キリスト教を由来とする表現に満ちており、この宗教に発した文化と思想とを背景にしている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となる聖書の知識とキリスト教文化について学ぶ。2 期では、キリスト教の歴史的展開を概観しつつ、それがイギリスとアメリカとにもたらした文化を、映像資料等を用いて学ぶことで、キリスト教の多面的な理解を目指す。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への参加態度（30%）	1
2	リアクションペーパー（20%）	1
3	期末レポート（50%）	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．イントロダクション　1 期の振り返り
２．ローマ帝国とキリスト教
３．教義の成立（1）　三位一体論
４．教義の成立（2）　キリスト論
５．修道制の成立（1）　独住修道生活
６．修道制の成立（2）　共住修道生活西方の修道制
７．修道制の成立（3）　西方の修道制
８．教会の東西分裂
９．キリスト教の文化（1）　クリスマス
10. ローマ・カトリック教会
11. 宗教改革
12. 英国の宗教改革
13. キリスト教の文化（2）　聖人崇敬
14. 英国国教会
15. ピルグリム・ファーザーズ

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
参考文献をもとに予習し、配布資料等を用いて授業内容を復習する。（4時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回の授業で、旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
hakamada@nanzan-u.ac.jp
留意事項
本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

英語科教育特論A				単位数	2単位
授業コード	M2540	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	伊藤　豊美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

　本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語並びに外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語科教育の背景となる専門知識を修得する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	実際の教室における高い指導技術を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	英語そのものの高い運用能力を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の発表（40%）	1／2／3
2	レポートの内容（30%）	1／2／3
3	指導技術の修得状況（30%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション
2　国際社会における英語：国際化と英語教育、国際語としての英語の将来
3　世界の英語教育事情：ヨーロッパ諸国、アジア・アフリカ等の外国語教育
4　日本の英語教育の史的展望：(1) 江戸末期～大正
5　日本の英語教育の史的展望：(2) 昭和～平成
6　日本の英語教育の史的展望：(3) 令和～　新しい時代に向けて
7　英語教授法の変遷 (1) The Grammar Translation Method & Direct Methods
8　英語教授法の変遷 (2) The Oral Method
9　英語教授法の変遷 (3) The Oral Approach
10　英語教授法の変遷 (4) The Cognitive Approach
11　英語教授法の変遷 (5) Communicative Language Teaching (CLT)
12　英語科教育教材論 (1) 言語材料についての知識
　　英語の音声、英語の文法、英語の語彙、英語の文章構成
13　英語科教育教材論 (2) 言語活動のための教材開発
　　リスニング教材、スピーキング教材、リーディング教材、ライティング教材
14　英語科教育教材論 (3) 異文化理解のための教材開発
　　英語教育と異文化理解、異文化理解のための教材開発
15　英語科教育教材論 (4) 誤答分析からの知見
　　中間言語、学習者の言語発達過程、誤答の収集と分類

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
後日、解答を掲示する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストの予習（2時間） レポートの作成（2時間） 学修内容の復習（2時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
itoh@m.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。

英語科教育特論B				単位数	2単位
授業コード	M2545	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	伊藤　豊美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				

本授業の概要

　本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語並びに外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語科教育の背景となる専門知識を修得する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	実際の教室における高い指導技術を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	英語そのものの高い運用能力を身に付ける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の発表（40%）	1／2
2	レポートの内容（30%）	1／2／3
3	指導技術の修得状況（30%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　英語科教育方法論（1）　コミュニケーションをめぐる考察
　　コミュニケーションの特質、コミュニケーション能力の定義
2　英語科教育方法論（2）4 技能の実践的指導法①リスニング
3　英語科教育方法論（3）4 技能の実践的指導法②スピーキング
4　英語科教育方法論（4）4 技能の実践的指導法③リーディング
5　英語科教育方法論（5）4 技能の実践的指導法④ライティング
6　英語科教育方法論（6）異文化理解教育への対応
7　学習指導要領（1）歴史的展望−学習指導要領の変遷
8　学習指導要領（2）作成過程と内容構成
9　学習指導要領（3）中学校における学習指導要領のねらい
10　学習指導要領（4）高等学校における学習指導要領のねらい
11　学習指導要領（5）学習指導要領と検定教科書
　　学習指導要領の法的意義、教科書検定のプロセス
12　英語科教育評価論（1）英語科教育とテスト
　　英語教育における測定・評価の意義と目的、評価の種類と方法
13　英語科教育評価論（2）各種テスト例と作成上の留意点
14　英語科教育学習者論　学習者の実態と要因
15　英語科教育教師論　英語教員のミニマム・エッセンシャルと研修

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
後日、解答を掲示する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストの予習（2時間） レポートの作成（2時間） 学修内容の復習（2時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。
オフィスアワー
随時質問を受け付ける。
連絡先
itoh@m.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。